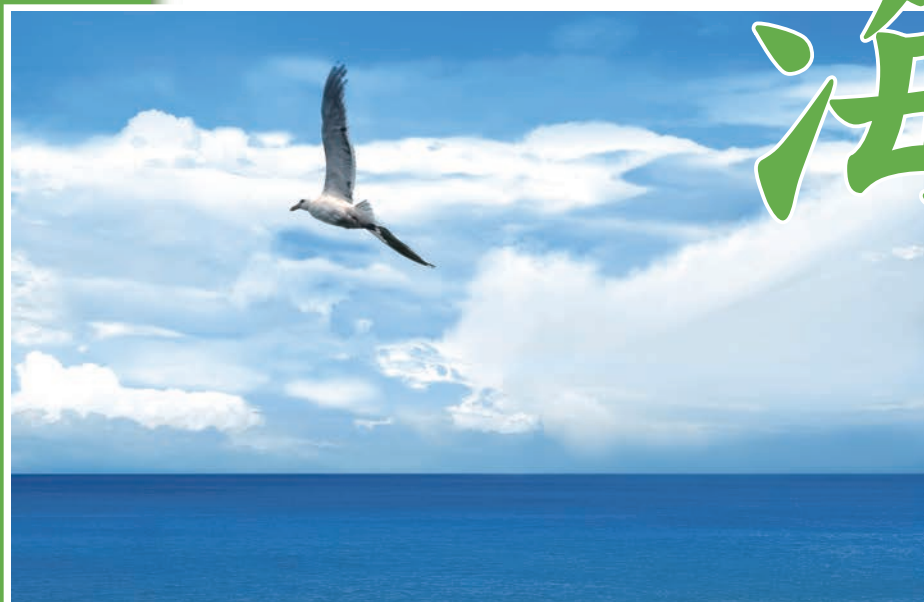


vol.32 july. 2019



# 拓海

「海」を切り開く匠の業と心

## CONTENTS

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 2019年 出会い               |    |
| 入学特集                    |    |
| 入学・進学のみなさんへ             | 3  |
| 校友会からのお知らせ              | 6  |
| 在学生から新入生のみなさんへ          | 7  |
| 先輩留学生から新入生のみなさんへ        | 13 |
| 大学での学び方                 | 15 |
| 卒業生より 業界で活躍しているOB・OGの方々 | 27 |
| 新任教員の紹介                 | 29 |
| 自治委員会・学生会 報告書           | 32 |
| 大学祭特集 ～海王祭～             | 33 |
| ニュース & トピックス            | 34 |
| 就職情報                    | 37 |
| 学生相談の体制                 | 42 |
| お知らせ                    | 45 |

## ◆2019年 出会い

## ■入学特集

## ◎入学・進学のみなさんへ

- 大学で学び、行動すべきこと～ 竹内 俊郎…… 3  
 新入生の皆さん 佐藤 秀一…… 4  
 新入生の皆さんへ 塚本 達郎…… 4  
 一人一人の役割 田中 祐志…… 5  
 大学院へ入学・進学した皆さんへ 井関 俊夫…… 5

## ◎校友会からのお知らせ

- 東京海洋大学校友会について…… 6

## ◎在学生から新入生のみなさんへ

- 新入生のみなさんへ 天野 匠…… 7  
 新入生のみなさんへ 宮川 紗江…… 7  
 新入生のみなさんへ 藤田 渉…… 8  
 新入生のみなさんへ 遊佐 和馬…… 8  
 新入生の皆さんへ 鈴木 裕太…… 9  
 新入生の皆さんへ 川島想妃愛…… 9  
 新入生の皆さんへ 橋本 啓吾…… 10  
 新入生の皆さんへ 須藤 遼…… 10  
 My campus life in Tokyo 宋 博文…… 11  
 新入生の皆さんへ 末久 幹二…… 11  
 新入生の皆さんへ 横山 晴之…… 12

## ◎先輩留学生から新入生のみなさんへ

- 新入生の皆さんへ 呉 怡 冷…… 13  
 A New Era of International Students  
 A. H. Seiji B. Lidasan…… 14

## ■大学での学び方

## ◎学科の特色ある実習の紹介

- 「食品微生物学実験」 高橋 肇…… 15  
 「海洋学実習Ⅰ・Ⅱ」 山中 寿朗…… 16

## ◎実習感想記

- 実習感想記 横瀧丈太郎…… 17  
 実習感想記 北村 哲志…… 17  
 実習体験記 市川 史菜…… 18  
 乗船実習で学んだこと 小原 左匡…… 18  
 実習感想記 鵜飼 瑛美…… 19  
 海外インターンシップ 本多 杏衣…… 19  
 海洋学実習 田中 創…… 20  
 実習感想記 鴻巣 真央…… 20

## ◎資格取得に向けて

- 学芸員の資格取得 大谷 朋己…… 21  
 資格取得に向けて 高野 友希…… 21

## ◎大学院で学べること

- 海洋管理政策学専攻(博士前期課程)  
 萩原 優騎…… 22  
 食品流通安全管理専攻(博士前期課程)  
 小川美香子…… 23  
 応用環境システム学専攻(博士後期課程)  
 岩淵 聡文…… 24

## ◎卒業論文・修士論文への取り組み方

- 卒業論文への取り組み方 高林遼太郎…… 25  
 卒業論文への取り組み方 折田 清隆…… 25  
 修士論文への取り組み方 黒田 真央…… 26

## ■卒業生より

## ◎業界で活躍しているOB・OGの方々

- 社会人になって思うこと 高島 京平…… 27  
 水産教育に携わって 高橋 憲太…… 28

## ■新任教員の紹介

- 海洋生物資源学部 壁谷 尚樹…… 29  
 食品生産科学部門 小山 寛喜…… 29  
 海事システム工学部門 福田 厳…… 30  
 海洋環境科学部門 真壁 竜介…… 30  
 海洋資源エネルギー学部  
 Laurent Seuront…… 30  
 海洋資源エネルギー学部 尾張 聡子…… 31

## ■自治委員会・学生会報告書

- 品川キャンパス自治委員会…… 32  
 海洋工学部 学生会…… 32

## ■大学祭特集

- 第59回 海王祭を終えて 鈴木 涼平…… 33

## ■ニュース&amp;トピックス

- ・平成30年度学位記・修了証書授与式…… 34  
 ・平成30年度学生表彰授与式、学業優秀学生  
 奨学金授与式、学会等各賞表彰授与式…… 35  
 ・平成31年度入学式…… 36

## ■就職情報

- ・平成30年度卒業者の就職先…… 37

## ■学生相談の体制

- ・学生相談室について…… 42  
 ・令和元年度学生支援教員一覧…… 43  
 ・学生相談体制について…… 44

## ■お知らせ

- 交換留学をしてみませんか?…… 45  
 図書館からのお知らせ…… 46  
 国立科学博物館および国立美術館の  
 利用について…… 46  
 国立劇場の利用について…… 46  
 緊急時連絡システムについて…… 47  
 ネットワークトラブル防止のための注意事項…… 49

2019年 出会い

## 入学特集

# 入学・進学のみなさんへ

### 大学で学び、行動すべきこと

学 長  
竹 内 俊 郎



新入生および進学生の皆さん、早3か月が経ちました。越中島や品川キャンパスでの生活には慣れてきましたか？そのほかの学年の皆さんは、しっかり勉学に

励んでいることと思います。昨年、明治150年でしたが、後述の3名はいずれも明治あるいは、大正・昭和にかけて活躍された人物のお話です。学園生活を送る中で、頭に入れ行動して欲しいと思い、書くことにします。

入学式の式辞で、水産講習所を明治39(1906)年に卒業された高碇達之助の人生訓をご紹介しました。彼は若くして東洋製罐(株)を設立し、支配人に就任するとともに、晩年、衆議院議員に当選後、通商産業大臣(現在の経済産業大臣)に就任し、「日中長期総合貿易に関する覚書」に基づく、いわゆるLT貿易を締結した方です。LTの「T」は彼のイニシャルであったこと、高碇氏は、「困難に直面した時は、それを飛び越える全く新しい手を考えることのみが、根本的な打開策となる。そして、そのカギは、まったく新規な頭で、自分の仕事を再検討することから始まる」と述べていることを紹介しました。実は、彼の人生訓にはまだその続きがあり、「議論というものにはシンプルでなきゃならん。子供のような議論が正しい」と述べています。皆さんが卒論や、大学院における

研究において、壁に遭遇した時には、常識にとらわれず、一から考えなおしたり、議論したりすることにより、新たな展開が見えてくるはず。彼の人生訓を忘れず、しっかりと、実験や研究をして欲しいと思います。

また、式辞の中で、三菱商船学校を設立した岩崎弥太郎の社員への訓示については、平成27年度3月期の学位授与式の折に紹介したので、HPを見てくださいますようお願いしましたが、ご覧いただけただしょうか？内容はお酒の飲み方です。岩崎弥太郎が創業した日本郵船(株)の宴会の作法に関する公会式目として、明治13(1880)年に5項目を定め、社員に示した中に、次のような内容があります。「一つ、酒を飲むのは楽しむためであって無駄な飲み方は良くない。また、二汁五菜以上食べてはいけない。一つ、飲む酒の量は人によって異なる。各自、自分の適量だけ飲むこととし、度を越してはならぬ。人に酒を強要してもいけない。乱れるような状態になるのもよくない。」と戒めています。これは、社会人の作法としてのみならず、学生の皆さんにも当てはまります。まずは、20歳未満の方は絶対にお酒は飲まないください。20歳を過ぎてお酒を飲むときには、上述の2つの内容を頭に入れて、行動してほしいと思います。他人への無理強い絶対にはいけません。

3人目に、新一万円紙幣に使われる予定の渋沢栄一についてお話します。彼は、「日本資本主義の父」あるいは、「実業界の父」と呼ばれる人物です。日本郵船が明治26(1893)年ボンベイ航路開設に際し、彼は調整役として尽力しています。なお、渋沢栄一と岩崎弥太郎は、事業経営について全く異なる信念を持っていたことで知られています。すなわち、渋沢氏は道徳や仁義を重んじるビジネスを旨としたのに対し、岩崎氏は個人の才覚と強烈なリーダーシップによりビジネス展開したことです。渋沢氏の最も有名な著書として、「論語と算盤」があります。「論語と算盤は甚だしく遠くして甚だしく近いもの、すなわち、正しい道理の富でなければその富は完全に永続することができない。したがって、論語と算盤というかけ離れたものを一致させることが、今日の極めて大切な務め

である。」と述べています。多くの経営者や役員の方が「教養本」として勧めている書籍の一つです。一度お読みになり、自身で咀嚼して行動に結び付けてください。

最後になりますが、「ビジョン2027 バージョン2」についてお願いがあります。すでにパンフレットをお配りしていますし、HPにも掲載していますが、ご覧いただけましたか？私が本学の学長に就任した2015年に掲げた「ビジョン2027」を今年改変したもので、2027年までに到達すべき目標が掲げられています。皆さんには、特に教育、研究、国際化の項目を熟読してください。今後のグローバル化の社会の中で、皆さんが生き抜くすべが、この中に入っていると思います。ぜひ有効に役立てていただければ幸いです。

それでは、入学式の式辞の最後にも述べましたが、本学が掲げる理念や人材育成の目標を念頭に置き、教育研究上の目的を達成するための教育プログラムに従って、確実に学んでください。その結果、培った実力に裏付けられた物事に動じない強い精神力と、自信を持った社会人として21世紀を生き抜く人材になることができると信じています。そして、多くのかげがえのない友人を得、社会で必要とされる知識とともに、豊かな先見性や想像力を持って未来に挑戦し、活躍できる資質、をこの本学で備えられることを祈念します。

## 新入生の皆さん、 入学おめでとうございます。



海洋生命科学部長  
佐藤 秀一

東京海洋大学海洋生命科学部は、海洋、湖沼、河川に生息する多種多様な生命体と人間との共存、環境、食糧、人類・社会の発展に関わる諸課題について、基礎から応用に至るまで教育研究する学部です。それぞれの学科で担当するエリアは異なりますが、海、水に生息する生命体と人間活動に関連する教育研究を行っています。

さて、オリエンテーションでも、お話しした様に、どうして、海洋生命科学部に入学したのか、考えて下さい。多分、海、川、湖、そこに生きる生物、それらを育成すること、保存すること、利用すること、ともに生きることなどに興味があり、もっと勉強したいと思って入学したのだと思います。これからは、勉強したいことをしたいだけ勉強できます。ただ、大学での勉強方法は高校まで学習方法と大きく異なります。特に、専門科目では、最新

の知見を教授しますので、成書にないものも多くあります。また、答えのないことを習う場合もあります。この為、しっかりノートを取り、復習をして下さい。わからないことがあったら、先生に積極的に聞きに行ってください。また、どの先生がどんな研究をしているのかをホームページや研究論文等で閲覧し、興味のある研究をしている先生方を訪ねてみて下さい。どの先生も大歓迎してくれるはずですよ。先生たちを大いに利用して下さい。それから、高校までの受け身の勉強から、能動的な勉強に転換して下さい。すなわち、learnからstudyへの転換です。そして、inputした知識をoutput、outreachできる能力を身につけて、creatorになって下さい。皆さんは、海洋大の校歌にあるように、「好きなことを 好きなだけ 学べる」特別な「現代(いま)」が始まったところですよ。大いに大学生活をenjoyして下さい。

水、海は地球を隔てることなく一つに繋がっています。皆さんも日本に留まることなくグローバルに羽ばたいて下さい。海洋大では皆さんが世界に羽ばたくことをお手伝いするプログラムを沢山用意していますので、積極的に参加して下さい。その一助となる英語力向上の為、海洋生命科学部の4年生への進級条件であるTOEICスコア600点を出来るだけ早い時期にクリアすることを希望します。

それでは、大学生活が充実したものとなることを期待しています。

## 新入生の皆さんへ



海洋工学部長  
塚本 達郎

皆さん、入学おめでとうございます。入学式の前からオリエンテーションが始まり、4月は慌ただしくあっという間に過ぎていったのではないかと思います。入学から2ヶ月が経過し、長い連休を挟んで、少し落ち着いて生活できているでしょうか。

これからの大学生活は、社会に出ていくための準備と仕上げの期間となります。自分の将来についてじっくりと考えて下さい。視野を広く持って日本社会全体、そして世界全体に目を向けて、多くのかかわりを持ってもらいたいと思います。外の社会と関わりを持つことで、今後自分がどのように生きていくべきかをより深く考えられるはずですよ。その中で皆さんに一つお願いがあります。英語によるコミュニケーション力の向上に努めてもらいた

いということです。海洋工学部では、今のところ英語に関して外部英語試験の評価を入学試験の出願要件や入学後の進級要件として課すことをしていませんが、これは決して英語ができなくても良いと考えているわけではありません。英語に少しは自信のある人も苦手な人もそれぞれの目標を持って、能力向上に努めて下さい。忍耐、努力が必要ですし時間もかかりますが、本人のやる気次第で必ず成果があります。学内でも勉強の手段は用意されていますし、お金をかけなくとも勉強する方法はたくさんあります。海洋工学部では、GLI（グローバル・リーダーシップ・イニシアティブ）プロジェクトを推進しています。これは、現代社会で要求されるグローバルな課題に果敢に挑戦し、異文化の中に身を置いても優れたリーダーシップを発揮できる学生の資質を認定する制度です。この中で海外での職業体験（海外インターンシップ）に毎年30人程度の学生が参加しています。今年度もさらに多くの学生を派遣できるよう計画を進めています。是非英語の力を向上させて、海外インターンシップへの参加で、自分を試し、視野を広げましょう。

## 一人一人の役割



海洋資源環境学部長  
田中 祐志

お芽出とうございます。新たに時代は令和となった。令和は諸君の舞台である。一人一人に役割がある。これから一丁やったるでえ!と意気込んでいる君、大活躍してくれ。これから一体どうしよう?と悩んでいる君、大丈夫だ。平和で自由な日本の大学では自分の道を探る時間がある。どうするか直ちに決める必要はない。全然焦ることはない。

諸君が生きていく未来には取り組む課題が山のようにある。日本の食料自給率は熱量換算で四割、エネルギー自給率は一割にも満たない。「海洋の資源と環境」だけを見ても、漁業資源の再生産力はもはや人類による漁獲に太刀打ちできない。百万種の生物が、中でも海産哺乳類の三分の一が絶滅の危機に瀕している。無思慮に放棄されたプラスチックが海岸に海中に海底に溜まる一方だ。海水のpHは下がる一方で、貧酸素域も広がるばかり。海の昇温がこのまま続いたら品川も越中島も水没だ。気象は籠が外れてしまい今までどおりの備えでは防ぎきれぬほど乱暴だ。日本を含む世界の193ヶ国がSustainable Development Goalsを定め

たからには2030年までに達成しなければならない…。

せっかく生まれてここまで育ち大学にまで入った君には未来を支える義務がある。今この世に在ることには意味があり、一人一人には必ず持場と役割がある。数多の課題に無数の役目がある。きっと「填役」がある。填役は店には置いてないけれど懸命に生きる人には必ず見つかる。役目を果たしていると感じている人は幸福だ。幸福なる人生のためまずその填役を見つけよ。そのために学生である今は懸命に勉強してくれ。大学では「何か」を究めるために十分に時間をかけて勉強できる。本やウェブに当たるときは紙背を見透すほど集中しろ。大学の外での見聞や経験も勉強だから何かをやるときには徹底的にやれ。君に固有のDNAがあるとき何かと共鳴するはずだ。

大学では「楽しみたい」? そうしてくれ。「楽しき」境地は日々鍛練を積み重ね困難を乗り越えていった先にある。学生時代の日々を大事にし給え。Good luck!

## 大学院へ入学・進学した皆さんへ



大学院海洋科学技術研究科長  
井 関 俊 夫

メルパルクホールでの入学式から、改元と長い10連休を経て、皆さんは授業科目の履修で忙しい毎日を過ごされていることと思います。せっかく入った大学院ですから、研究テーマだけではなく、その周辺の雑多なことに興味を持ち、役に立ちそうなことを貪欲に吸収して下さい。研究者としての「引き出し」は多い方が良いと思います。

話は変わりますが、10連休中に長距離ドライブした際、高速道路で酷い渋滞にハマってしまいました。変化しない景色に飽き飽きしながら、最近よく聞く自動運転は渋滞対応モードなんてあるのかな?などと考え始め、それぞれの位置情報や加減速性能を車同士で共有し、車列の伸び縮みが最小となるようにそれぞれの車を制御すれば、渋滞を即座に解消できるのではないかな?などと考えながら退屈を紛らわしました。乗用車の自動運転や顔認証のように、AIの利用は最近話題に上ることが多くなってきていて、私たちの研究活動においても、AIを駆使する時代が直ぐにでもやって来そうな雰囲気です。時流に乗り遅れないように、あれやこれやとAIの最新動向を勉強しないとイケないと思います。ところで、AIが社会に浸透して来る場合、私たち研究者の最も重要な役割は、AIが出した答えが正しいかどうかを判断すること

だと思えます。これは、通常のプログラミングにおけるデバッグ作業に似ているようですが、AI内部の多数の重み係数から問題点を発見することは人間には不可能ですから、かなり違った作業になると考えられます。具体的には、AIが変な答えを出した場合、従来の研究手法から得られた結果と比較するだけでなく、機械学習に用いられたデータがどのように収集されたか、サンプル

に偏りはなにか、使用されたセンサーとその動作原理は?などのように、知識を総動員して問題点を推理する必要があります。自分の専門だけをちゃんと勉強していれば良い、なんて言っていられなくなりそうです。皆さんも研究テーマの周辺に目を配り、面白そうなことは手当たり次第に勉強して、「引き出し」をたくさん作ってみてはいかがでしょうか。

## 東京海洋大学校友会

東京海洋大学校友会は在学生、卒業生、修了生、在学生・卒業生の保護者、教職員、各同窓団体等の新たな交流を活発化させ、「オール海洋大」の連携を強化することにより、大学の発展に寄与することを目的として発足しました。

### ○【イベント】第1回総会・ホームカミングデーを開催しました。

この度2019年6月1日に、校友相互の交流するイベントとして、第1回総会・ホームカミングデーを開催しました。

総会では竹内校友会会長（東京海洋大学長）、東海理事から校友会や活動の報告・計画について発表が、またホームカミングデーでは日本郵船株式会社相談役・本学理事の宮原耕治様による記念公演と、同窓会合唱団の雲鷹丸合唱団、学生団体として越中島写真部と海事普及会の発表があり、懇親会では各校友会員が交流し、盛り上がりました。ご協力・ご参加いただいた皆様により、本学に関わる様々な立場の方に発表、交流していただき、大変有意義な会にすることができました。



宮原様のご講演の様子



交流する校友会員

### ○東京海洋大学校友会のできること

- 「校友会メールマガジン」により、校友会や大学の最新情報をタイムリーに受け取ることが可能になります。
- 校友ごとのマイページや、課外活動ポータルサイトにより、学生の近況が確認できます。
- メールアドレスが分からなくても在学生等と「メッセージ」機能でやり取りができます。
- 校友会が開催するイベント（総会やホームカミングデー等）に参加できます。
- 整理券が必要な大学イベント（海鷹丸乗船等）に校友会枠として参加できます。

また、本学卒業生を支援する同窓組織として「楽水会」「海洋会」があります。本学卒業生との強固なネットワークを築いておりますので、ぜひご加入ください。

楽水会：<http://rakusui.or.jp/>

海洋会：<http://www.kaiyo-kai.com/>

### ○【特集】校友会メールマガジン

校友会で配信しているメールマガジンの主な内容です。随時内容を拡大していく予定です！

- ▼校友会情報
- ▼退職教員よりの一言紹介（東京海洋大学学生情報誌「拓海：退職の年を迎えて」）ピックアップ
- ▼東京海洋大学学生情報誌「拓海：新任教員紹介」ピックアップ
- ▼文部科学教育通信「東京海洋大学マリンサイエンスミュージアム収蔵品紹介」
- ▼東京海洋大学HP掲載情報
- ▼その他東京海洋大学関係の情報
- ▼生協フェアお得情報
- ▼同窓組織からの情報

校友会に関する問合せ先／東京海洋大学校友会事務局

電話番号：03-5463-0354

メールアドレス：koyukai@o.kaiyodai.ac.jp

2019年 出会い

## 入学特集

在学生から

# 新入生のみなさんへ

### 新入生のみなさんへ

海洋科学部 海洋生物資源学科4年

天野 匠

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。長く辛い受験勉強を乗り越え、楽しい大学生活を謳歌しているだろうと思われる。さて、今回の「拓海」において「新入生へのメッセージ」を、とのことですので僭越ながらいくつか大学生活のアドバイスをさせていただきます。

1つ目のアドバイスです。是非サークル・部活に所属してみてください。他学科・他学部の人との思いが

けない出会いがあなたをより成長させてくれます。私は学祭の実行委員会と軽音部に入っていました。実行委員会の方では「学園祭の成功」という共通の目標に向かって仲間とともに1年間がむしゃらに突っ走り続け、軽音部の方では色々な人とバンドを組んで真面目に音楽に向き合いました(後者は今でも続けていますが)。これらの活動で得たものが血となり肉となり今の「私」を作り上げていると自信を持って言えます。

2つ目のアドバイスです。学割を利用していろんなところに出かけてみてください。学生証を提示するだけで様々な施設・交通機関が割引、または無料で利用できます。この特権を存分に使ってたくさんの「経験」を積み重ねて知見を広げてください。培ったものが将来ひょんなところで役に立つはずですよ。

勉強以外のことに本気で打ち込むことができるのも大学生の間だけです。長いようで短い大学生活をどうか悔いのないように過ごしてください。

### 新入生のみなさんへ

海洋科学部 食品生産科学科4年

宮川 紗江

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。入学してから早3ヶ月が経ちますが、思い描いていたような大学生活を過ごせていますでしょうか。

さて、今回は、大学生活の過ごし方についてお話をさせていただきたいと思います。感じている方もいるかもしれませんが、大学は高校までとは違い、時間に縛られることが少なくなります。講義の取り方次第で空



旅行にて

きコマを作ることもできます。私は今4年ですが、ただ何かするということもなく過ごしていた空きコマや全休を、もっと自分の為に自由に時間を使えば良かったと内心後悔しています。そのため、1年生には後悔しないように時間を有効に使ってほしいと思います。校歌にもある通り「現在はすぐに過去」です。アルバイトばかりをするのではなく、サークル活動や趣味を楽しむ時間等も大切だと私は感じます。

また、ただなんとなく学年を進級するのではなく、何か目標を見つけて過ごせたらより良い大学生活を送れるのではないかと感じました。日々の講義の中で自分の興味のある分野を見つけ独自に学ぶことも、海洋大ならではの専門的知識を身につけることもとても有意義な時間になるのではと思います。食品生産科学科に入った方だと、1年の後期から実験が始まります。4学科の中では一番実験をする機会が多いです。その時は毎週やってくるレポート地獄に頭を抱えていましたが、今では多くの実験を経験させてもらい、とても良い機会であったと思えます。今学んでいることが将来役に立つと信じて、何事にも全力で取り組んでほしいと思っています。

皆さんが、この大学に入って良かった、と思えるような大学生活を過ごせることを願っています。

## 協調性と主体性

海洋生命科学部 海洋政策文化学科3年

藤田 渉

新入生の皆さん並びに保護者の皆様、東京海洋大学へのご入学おめでとうございます。入学から三か月ほどが経過し、そろそろ新たな環境に慣れてきた頃でしょうか。私からは学生生活における協調性と主体性をテーマについて述べさせていただきます。



2年次のマリンスポーツ実習にて

協調性とは、他の人と物事をうまくやってゆける傾向や性質のことです。海洋政策文化学科は一学年の学生数が40人少しと、学内で見ても非常に学生数の少ない学科です。それだけに学生間、さらには学生と教授との間での仲が深まり易くなっていると思います。この環境を大切に、しだいに培っていくであろう協調性を日々の講義や数多くの実習の場面で活かしてみてください。また、協調性をもつことは新生活をスタートさせた皆さんにとって学内の活動に限らず、学生生活全般において活かせるのではないのでしょうか。

一方で、主体性も重要となるでしょう。主体性とは、自分の意志や判断によって、みずから責任をもって行動する態度や性質のことです。耳にタコができるほど聞いたことかもしれませんが、大学は高等学校までとは異なり、自主的に学問を追求する場です。それ故に、主体性をもって行動することもまた学生生活において重要となるだろうと考えます。

一在学生の戯言かもしれませんが、協調性と主体性をもって行動することが皆さんの新生活の一助になれば幸いです。

## 新入生のみなさんへ

海洋工学部 海事システム工学科4年

遊 佐 和 馬

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。入学してから月日が経ち大学生活には慣れてきた頃でし





ようか。充実した大学生活を送るためには、何よりも心身の健康が重要です。

大学生活ではわからないことや心配なことも多々あると思います。そんな時は、教職員や先輩、同期に相談してみましょう。そんな中でも、同級生との横のつながりは重要です。自分の所属している学科はもちろんのことですが、他学科や他学部の人と交流することも自分の視野を広げることに役立ちます。私も海洋大に入学して早3年になりますが、自分で行動しない限りや他学科や他学部の学生と関わることは多くありません。一度しかない大学生活をより充実させるためにも、横のつながりを作ることは皆さんの一生の財産になるはずですよ。

品川、越中島にかかわらず海洋大では練習船や校内での実習が多くあると思います。高校では、学ばなかった新しいことや同級生との共同生活を通して大きく成長できるでしょう。

あっという間の海洋大での生活をエンジョイしてください。みなさんが、素晴らしい仲間と出会い、好きなことを好きなだけ学び、立派な海洋大生となるその日を楽しみつつ、健闘をお祈りいたします。

## 新入生の皆さんへ

海洋工学部 海洋電子機械工学科4年

鈴木 裕太

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。入学から日がたち、そろそろ大学生生活にも慣れてきた頃ですね。

さて、皆さんはどのようなきっかけで本学に入学されてきたのでしょうか。

「航海士・機関士になりたい！」、「海が好きで！」「国立大学だったから・・・」、「滑り止めで・・・」理由は様々だと思います。またそれによって本学での実習・講義への熱意も様々でしょう。しかしながら、その熱量の大小に関わらず本学の学生であれば皆、その他の大学では体験することができないような多くの実習を経験します。

乗船実習(海事・海洋の学生であれば、船員を志望しない学生も最低2か月は乗船します)や遠泳実習、大学所有船舶を用いた実験などがあります。

これらの実習は航海士・機関士を希望している学生はもちろん、船員にならずともかけがえのない財産となります。また、私のように実習などを通して、「船員」という職業に魅力を感じ、進路を変更する者もいます。

3年前には自分が海上職を志望するなど思ってもみませんでした。

3年後、就活・大学院進学準備の時期に自分が何を目指し、何をしようとしているのかは1年生の時はわからないものです。1年生の時には想像できなかったような事をしているかもしれません。ならば、現時点での自分の考えにこだわらず、乗船実習などの多くの実習にも全力で取り組んでみることをお勧めします。そうすればかけがえのない財産を手に入れ数年後、本学に入学したことが正解だったと思うことができると思います。



乗船実習にて

## 在学生から新入生の皆さんへ

海洋工学部 流通情報工学科4年

川島 想妃愛

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい大学生活が始まり、少しずつ慣れてきた頃でしょうか？

私が大学に入学して高校生との違いを一番感じたのは、時間的制約が格段に少ないことです。履修の時間割も自分で決め、自由な時間も増える分、毎日の過ごし方をしっかり考えることが4年後の自分に大きく影響していきます。

4年間は長いようであっという間です。新しいスポーツに挑戦したり、長期休みを利用して国内外問わず新たな地に行ったり、多くの人と違って様々な価値観に触れたり、やろうと思えば大学生活で挑戦出来な

いことはないと思います。

私自身は新しいスポーツ、サークル活動、アルバイト、国家資格など様々なことに打ち込みました。今までの大学生活を振り返ってみても、とても充実しています。

何にどのくらい時間を使うかは人それぞれだと思いますが、どんなことでも、これを頑張った、時間を忘れるほど楽しんだ、これと一生懸命向き合ったと言えるものがあると、大学生活を終えた時に、充実した時間だったと感じられると思います。最後の学生生活を、思う存分楽しんでください。

## 新入生の皆さんへ

海洋資源環境学部 海洋環境科学科3年

橋本啓吾

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。大学生活はいかがですか。思っていたより自由な時間がないという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。実は、私はそうでした。予習復習など「やらなければいけないこと」で、1日が終わってしまう日もありました。大学生になるとサークルや趣味、旅行など「やりたいこと」が、たくさん出てくると思います。私はうまくできませんでしたが、ぜひ新入生の皆さんには「やらなければいけないこと」と「やりやすいこと」のバランスをうまくとり、両立してほしいと思います。

また、海洋資源環境学部では乗船実習や海洋学実習、実験、遠泳など他大学では経験できないものがたくさんあります。講義で習ったことをより深く理解できることもあり、充実感があります。講義も学年が上がるにつれ専門分野が増え楽しくなってきますが、1年生からの積み重ねの分野もあるので、今から頑張ってください。そして、講義で興味を持ったことは先生がたに話を聞きに行くことをお勧めします。最初は緊張するかと思いますが、行ってみると、研究室で行われていることを知ることができます。自分の将来のビジョンも想像でき、日々の原動力になります。

勉強の事が多くなってしまいましたが、この4年間は将来を大きく左右する大切な時期だと思います。興味のあることを広げ深め、バランスをうまくとりながら、悔いのない大学生活を送ってください。

## 新入生の皆さんへ

海洋資源環境学部 海洋資源エネルギー学科3年

須藤 遼

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。ご入学からしばらく経ち、大学生活にもそろそろ慣れてきたところでしょうか。

今までの生活からの一番の変化は、高校の時間割が毎日詰まっていたことに対して、大学の時間割は空きコマがあることだと思います。勉強だったり、遊んだり、サークル活動をしたり、自由な時間が増えます。皆さんにはこの時間を大切にしていきたいです。そして、自分のやりたいことを見つけてください。やりたいことを大学生活中にやりきるということが今後の人生に大きな影響を与えると私は思います。

また、一つでも部活やサークルに入ることをおすすめします。その理由は二つあります。

一つ目として、先輩から学校生活に関してのアドバイスを頂けるからです。入学からしばらく経ちましたが、まだ分からないことばかりだと思います。そんな時、気軽に疑問点を質問できる先輩がいるととても助かります。私自身も先輩からのアドバイスに度々助けられました。

私は弓道部に所属しているのですが、ここで「射即人生」という四字熟語を紹介したいと思います。簡単に言うと「弓を引く経験からいろいろな教えを得て人生を豊かにする」という意味です。これは弓道にのみ



言えるものではなく、他部活・サークルにも通ずるものがあると思います。是非、部活・サークル活動を通して《色々なことを経験して》人生を豊かにしていただきたいです。これが理由の二つ目です。

皆さんの可能性は無限大です。やるべき事はきちんとこなし、やりたいことを全力でやり抜いてください。皆さんにとって海洋大での学校生活が最高なものになることを期待しています！

## My campus life in Tokyo

大学院海洋科学技術研究科 海運ロジスティクス専攻2年  
宋 博文

October 5, 2018, the day I came to Tokyo for the second time, unveiled my brand-new life of studying abroad. But every things were still attractive to me when I arrived in Tokyo. Last time I was just a tourist, however, I would be in Tokyo for the next 2 years as an international students.

To begin with, it was difficult for me to get accustomed to surroundings because of language and cultural diversity .Fortunately, I had a nice professor and many nice lab colleges, with whose help i can settle down as soon as possible. .

Campus life was really good, I couldn' t take part in some Japanese student organizations though, I enjoyed every single day here. Course



pattern, more flexible and acceptable, is totally different from my former university in China. Teachers were very generous and enthusiastic to help students solve problems. Although I was studied in a Japanese university, I could use English in many cases as well.It' s really international,however,I hoped that I could make a great progress in Japanese-learning in the future.

Besides studying, I experienced real Japanese life in the past half year. My professor, is a very nice person,who had taken me to experience real Japanese Izakaya. I tasted many kinds of food that I had never eaten in China. Furthermore, I was lucky to get a beautiful sightseeing in Fuji mountains, and experienced a real snow country in Hokkaido. When spring came I was appreciated to have the oppoortunity to see the Sakura opening all around Tokyo.

The past half year was brilliant. I hope that everything will be better in the following days, and I can get more fantastic memory on the journey of learning.

## 新入生の皆さんへ

品川キャンパス自治委員会委員長  
海洋生命科学部 食品生産科学科3年

末久 幹二

新入生のみなさん、こんにちは。品川キャンパス自治委員会委員長の末久です。

入学してから2ヶ月が経ちましたが、大学生活には慣れましたか？新しい生活に順応しようとしているうちにあっという間に4、5月が過ぎ、そろそろ一息つく頃かもしれません。この2ヶ月間、想像していた生活と、良い意味でも悪い意味でもギャップを感じたと思います。私自身、自由なキャンパスライフがあまりないこと、長く感じる授業に辟易したものです。一方で、部活動に励んだり、自治室で書類を作ったり、忙しいながらも何かしらの活動に取り組んできました。

さて、自分らしい生活や周りの環境は定まってきたでしょうか。お昼ご飯を食べる場所や空きコマにすること、仲の良い友達や頼れる先輩、好きな分野や苦手な分野、趣味やサークル、アルバイトなど、大学生活

のキーワードの多くが1年生のうちに形作られます。食わず嫌いをせずに、ぜひたくさんの方に手を伸ばして触れてみてください。今しかできない経験がたくさんあります。そして、その経験は大学生活の中でも、社会に出てからもきっと役に立つはずで。好奇心や興味を赴く方へと行動できる大学生の特権を目一杯利用しましょう。思いがけないところで人脈ができ、その人の紹介で就職したり、学外に気の合う人を見つけたりすることもあるかもしれません。広い視野で、有意義で素敵な4年間を過ごしてくださいね。

## 新入生の皆さんへ

海洋工学部学生会事務局長  
海洋工学部 海洋電子機械工学科4年

横山 晴之

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。上級生として皆様のご入学を心より歓迎申し上げます。

大学へ入学された皆様は様々な思いを持って大学へ来られたことかと思えます。この大学で学びたいことがあってこられた方もいれば、何か別の思いがあって入学された方もいるでしょう。

皆様にお伝えしたいことは一つです。

多くのことを大学生活で学んでください。

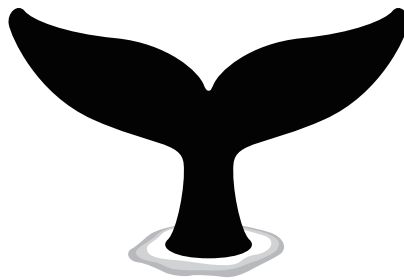
「学び」は受験勉強と違い、詰め込むばかりの物ではありません。能動的に物事を吸収し自分の血肉にしていくことです。もし自分がこの「学び」をしたいと思えば、人に迷惑を掛けない範囲で動いてほしいです。ただ動こうとしたときに人によっては理解を示さないこともあるでしょう。しかし、そこで諦めず自分が納得するところまで進んでみてください。

「無用の用」という言葉をご存じでしょうか？

これは中国の古い思想家、「老子」が残した言葉で、意味は一見意味を為さないものが大事な意味をなしているというものです。

一見意味のなさない知識がいずれ役に立つことも多くあります。例としてあげるならば、錬金術が挙げられます。錬金術は卑金属から貴金属を生み出す技術で結果として無意味に終わりました。しかし、この研究の成果は化学の分野に非常に大きな貢献を果たしました。学んでいる知識が違う分野で役に立つことは往々にしてあります。

大学生活は社会に出る前に経験できる自由な時間です。遊ぶことだけに使うのではなく多くの「学び」をしてほしいと思います。



2019年 出会い

入学特集

先輩留学生から  
新入生のみなさんへ

新入生の皆さんへ

海洋科学部 食品生産科学科4年

呉 怡 冷

新入生の皆さん。この度はご入学おめでとうございます。食品生産科学科4年の呉怡冷です。

新学期が始まってしばらく経ちましたが、大学での生活はいかがでしょう。最初は文化や言語の違いで戸惑うことが多いと思いますが、深く考えすぎずに積極的に行動して留学生活を楽しみましょう。

私は、日本で食に関する勉強がしたくて、本大学の食品生産科学科に入学しました。そして大学での講義や実験を経て、食品を生産するための理論と技術が少しずつではありますが、確実に身につけていったのを実感しました。皆さんも、何かしら目的を持って東京海洋大学に入学したのだと思われます。何のために国を出てこの大学で勉強しているのを見失わず、これからも頑張ってください。また、せっかくなので、日本の大学でしか体験できないこともしてみませんか。私は、日本ならではの文化を体験したくて、一年生から海鷹祭実行委員会に入りました。勿論、最初の頃は



言語や文化の違いで結構苦労しました。しかし、そのおかげで自分の日本語能力が上達したのを感じ、なによりも違う学科の友人もたくさんできました。皆と協力して学園祭の運営管理に携わることにやりがいを感じ、大変ではありましたが、非常に充実した三年間を過ごすことができました。

もし大学生生活を航海に例えるなら、委員会などの活動は旅に彩を与える気候ではないかと思います。皆さんにとって充実した留学生活になるよう心から願っております。

## A New Era of International Students

大学院海洋科学技術研究科 応用環境システム学専攻3年

A. H. Seiji B. Lidasan

Greetings to all new international students! Welcome to TUMSAT! As you know, the previous emperor of Japan has abdicated, and was succeeded by his son, leading to a new era in Japan, the Reiwa era. This means that you

are the first batch of international students in the Reiwa Era! This surely will be a defining characteristic of your stay in TUMSAT and as freshmen and freshwomen, I know there will be a lot of firsts during your stay here and at first, it might seem difficult to get used to the workings in TUMSAT and in Japan. But there are ways to get around those! You can always ask help from your lab members if you have problems. We also have a very patient and supportive International Section located at Shinagawa Campus. And of course, your supervisor is like a second parent during your stay in Japan and he/she will help you if you have any concerns especially with your academics. Being the first batch of international students of TUMSAT for the Reiwa era, I hope that this will inspire you to do well in your academics and research. Who knows but you might also be one of the first to discover, invent, or research something new in this new era of Japan! All the best and good luck!



# 学科の特色ある実習の紹介



## 食品微生物学実験

食品生産科学部門 准教授

高橋 肇

「食品微生物学実験」では食品微生物の「基礎」と食品業界における「応用」の両方を学びます。食品会社では、生産する食品で消費者が食中毒にかからないように、また、消費する前に腐敗してしまわないように、日々さまざまな検査をしています。微生物の検査をするには、まず、微生物の正しい取り扱いが出来なければなりません。そのため、「基礎」の部分では、培地作製や無菌操作にはじまり、座学で学んだ食中毒菌に関する知識を用いて、自分たちで持ってきた食品について食中毒菌の有無を判別します。また、食品検査に用いる培地に生育してくるコロニーを観察し、ある程度の菌種を判別する技術も身に着けます。自分の目で見て、座学で習った知識をフル活用し、自身で菌種を判別するという経験は食品に携わるうえで大きな強みになります。

「応用」の部分では、食品会社で商品を開発する際に必須となる賞味期限、消費期限の保持技術や素早く商品を出荷する際に行われる自主衛生検査の一つであるPCR法を用いた迅速検査法を習得します。食品をある程度の日持ちを持たせて流通させるには、菌の増殖を止めるか完全に殺菌するかは2択しかありません。増殖の止め方はいくつか方法ありますが、この実験では弁当惣菜類で広く用いられている「日持ち向上剤」について、モデル食品へ添加しその効果を検証することで、味との相関性にも着目しつつ学んでいきます。また、PCR法による迅速検査では、「基礎」の部分で行う食中毒菌の検査を同時に行い、検査の迅速性、正確性を理解します。これに加えて、商品に対するクレームが発生し、その原因菌を追及する際に必要となるDNAシー

クエンスによる迅速同定法も習得し、ここ十数年で変わってきた衛生管理技術を理解します。

本実験では、前述のとおり微生物の取扱いから業界で実際に使われている手法までを学ぶことができ、手法の習得を通して食品の商品設計の最後の部分、食品を腐らせずに長く流通させる技術についても理解を深めることができます。国内の大学には微生物を研究しているところは数多くありますが、食品に特化し衛生検査から賞味期限の延長までを深く学ぶことのできる講義は多くありません。この実験を通して、微生物学の側面から商品設計や流通に興味を持つきっかけとなってくれば幸いです。



## 海洋学実習Ⅰ・Ⅱ

海洋環境科学部門 教授  
山中 寿朗

「海洋学実習」ⅠおよびⅡは、海洋資源環境学部海洋環境科学科の、それぞれ、2、3年生を対象に実施される実習です。ともに、5日間、練習船に乗船します。海洋観測・試料採取技術、船上分析法、データ解析方法を習得し、船内生活と海上での安全確保に必要な知



識を体得することが目的です。沿岸から外洋まで様々な海域で観測を行うので、入学以降、講義で知識として学んできたことを、実際の観測や分析を通じて体験的に学ぶことで、一層「海洋学」への理解が深まり、魅力を実感することができます。

2年生の実習Ⅰでは、東京湾から相模湾にかけて、主に湾内を対象として観測を行います。富栄養化した東京湾、外洋水と沿岸水が交差する相模湾、それぞれの環境がわかります。また、海底にどんなものがたまっているか、堆積する物質も観察します。3年生の実習Ⅱでは、幅約100km、最大で流速が4ノットにも達する世界最大の海流の1つである黒潮を横断する観測を行います。

いずれの実習も、観測終了後にそれぞれ班ごとに得られた結果を整理して全参加者の前で発表を行います。この発表会では学生同士、時に教員を交えて活発な質疑応答が行われ、参加者全員で議論を深めていくことができる一体感も感じることができます。両実習を通じて、沿岸域や内湾と黒潮域の「海」の違いを観測、分析を通して体験できることも、その後の卒業研究に取り組んでいく上でかけがえのない経験になっているようです。





# 実習感想記



## 実習感想記

海洋科学部 海洋生物資源学科4年

横 瀧 丈太郎



海洋大では、たくさんの実習が用意されており、自分が興味をもった実習に参加することができます。実習では、座学では得ることができない知識や経験を得ることができるのはもちろんですし、実習を主導してくれる研究室の研究内容や特色についても、先生や先輩から話を聞くことができるというのも大きなメリットの一つです。今回私は、数ある海洋大の実習の中から「漁業科学実習」に参加した感想を記述していきたいと思います。

この実習のメインは、旋網操業の体験です。実習では、投網と揚網をする船と、探魚や裏漕ぎをする船、漁獲物を取り込んだり、記録をつけたりする船の計3隻で協力して操業し、私たち実習生はそれぞれの船に乗って操業を体験することができました。この中でも特に記憶に残っているのは、揚網の作業です。船に乗っている実習生みんなで力を合わせて手作業で揚網するのですが、これが結構大変で、終わる頃には汗をかいてヘトヘトになっていました。しかしその分魚が網に入っているのが見えたときの感動は大きく、「漁をしている」という実感もわかります。また、探魚を担当する船で、レーダーに魚群の反応が出たときの興奮もとても印象に残っています。さらに

この実習では、編網についても学びました。不器用な私は苦戦しましたが、最終的には一本の糸から、サッカーボールを入れられるようなネットを完成させることができました。

私は、今回紹介した「漁業科学実習」以外にもいくつかの実習に参加しましたが、すべての実習で本当に多くのことを学びましたし、純粋に楽しむことができました。私の一生の思い出になると思います。



## 実習感想記

海洋科学部 食品生産科学科4年

北 村 哲 志

うだるような暑さが続いた平成最後の夏、自分は人生初の体験を数多くしました。その数多くの体験が凝縮されていたのが、夏休みに行われた食品生産学実習です。この実習では、レトルトカレーや魚肉ソーセージ、



ウナギを慣れない手つきで捌く筆者

ツナ缶などの加工食品を、現場に近い形で生産し、自分たちの学んだ知識を体験するという実習でした。

実習中のエピソードで思い出深いのは、ウナギについてのお話でした。自分はウナギで有名な静岡県出身なのですが、恥ずかしいことにあまり地元に関心がなかったため、詳しい話は聞いたことがありませんでした。しかし、実習中に行なわれた小さな講義での、うなぎの養殖研究についてのお話は大変興味深く、さらには滅多にできない捌きまで体験させていただくことができました。骨の柔らかさに大苦戦し、「串打ち三年、裂き八年、焼き一生」という言葉の重みを感じました。

もちろん、主目的である生産実習も全力で取り組みました。企業ではほとんど機械化されているような作業も全て自分たちが手作業で行ったため、完成した製品への思い入れもひとしおでした。同時に、自分たちの製品の原価を算出することで、機械導入をすることによる低コスト化の威力も体感しました。

もちろん楽しいばかりではありません。作業はきつい工程が大半でしたが、自分の学んでいる知識がどう現場に活かされているのかを知る、いい体験でもありました。この実習のおかげで、暑いだけでなく、熱い経験ができた、いい平成最後の夏になれたと思います。

## 実習体験記

海洋生命科学部 海洋政策文化学科3年

市川 史菜

海洋政策文化学科で2年生次に実施された、水産調査とマリンスポーツ実習について紹介したいと思います。

まず、水産調査とは、沿岸域の水産業の現場を実際に訪問し、実態を調査する実習です。昨年は富山県の魚津市で行われました。水産業の現場で働く方々からお話をきいたり、水産試験場を見学したりしたことで、理解が深まり、水産業をよりよくするにはどうすべきかなどを考えるようになりました。漁業体験で得たカサゴなどの魚を、地元の方に教えていただきながら自分たちで捌いて食べたことがとても印象に残っています。

次に、マリンスポーツ実習は沖縄県の渡嘉敷島で行われました。この実習では、マリンスポーツの技術を習得するだけでなく、どうしたら安全にマリンスポーツを行えるのか考え実行する実習です。

本来は9月に行われる予定でしたが台風のため3月へ



筆者は左から2番目、マリンスポーツ実習にて

と延期になり、少し寒さを感じつつもスキューバダイビングやカヤックをしました。渡嘉敷島の海はとても綺麗で、何度も海ガメを見ることもでき感動しました。自分たちでテントを組み立てて、当番で食事を作るなど大変なこともありましたが、素晴らしい大自然に囲まれながら大学の友人や先生と共同生活するという貴重な経験は、一生の思い出です。

政策学科の実習は珍しいものが多いと思います。他にも、水圏環境教育学実習や沿岸地域社会調査などがあります。内容も充実しているので、是非いろいろな実習に参加してみてください。

## 乗船実習で学んだこと

海洋工学部 海事システム工学科4年

小原 左匡

乗船実習で学んだことは何だろうと思う。建前を言うならば操船や共同生活の基礎を学んだとは言える。しかし思い返して具体的に何を学んだかと聞かれると難しい。そのため最初から一つずつ思い返してみたいと思う。私は、別段航海士になりたいという確固たる意志があって東京海洋大学に入学したわけではない。そのため入学して夏休みに入り、さあ乗船だと言われるまで正直船の大学の実感はなかった。一年生の実習は、はっきり言ってきつかった。わからないことしかない航海当直、ほぼ初対面に近い人との共同生活、慣れない生活で気が張ることばかりであった。もちろん悪いことばかりではないが、一日一日があんな長いと

感じたのはあれが初めての経験であった。逆に二年生の実習は、非常に充実していた記憶がある。これは一年生の乗船実習の経験があったからこそ充実したと言える。わからないことが多かった航海当直についても少しずつ自分のやるべきことがわかり、共同生活も慣れてしまえば楽しいものであった。総じて乗船実習で何を学んだか、私が考えるに航海士の心構えの一端を学んだと言える。船の上の仕事、ルーティンワークだけでは済まされない仕事の一部を学び、そういった臨機応変に対応できる力、心構えが必要なのがあった。次の乗船ではそういったことを心がけ、終わった後にはこれを学んだと胸を張って言えるようになりたい。



## 実習感想記

海洋工学部 海洋電子機械工学科4年

鵜飼 瑛美

私は、1年生から3年生までの3年間で1か月間の船舶実習を3回経験しました。いずれも海技教育機構の練習船で、1年生の時は大成丸、2年生と3年生の時は青雲丸に乗りました。

1年生の大半は、日本丸という帆船に乗るため大成丸に乗船した海洋大生は20名しかおらず、実習生ほとんどが海技短大の2年生でした。1年目の航海当直は、船橋と機関室いずれも入ることになります。海洋大生と海技短大生が1班ずつ同じ当直に入るので、同じ役割になった海技短大生に色々教えてもらいました。一緒に乗る海洋大生は少なかったですが、学べること

は多かったので、日本丸に配乗して多くの同級生と共に過ごすのも、他の船に配乗して同級生が少ない中で実習するのもどちらにもいいことだと思います。

2年生以降は、全員が同じ船に乗船します。1年目との時との大きな違いは、航海当直が機関室だけになること、船に乗っている学生の大半が海洋大生であること、航海中も実習や授業があることの3つだと思います。1年生の実習は大まかにいうと、船に関する全般を広く浅く学びます。2年生以降は、大学内の授業でも実習でもより専門的なことを学びます。実際に動いているプラントと知識を結びつけることができるので、とてもいい経験になりました。船舶実習はつらいこともありますが、得られるものもあります。私にとっては、プラスマイナスで言えばプラスになる経験として実習を終えることができたのでよかったです。

## 海外インターンシップ

海洋工学部 流通情報工学科4年

本多 杏衣

私は、オランダのロッテルダムにある会社で、二か月半のインターンシップに参加しました。その会社は、海底油田のプラットフォームやオイルリグなどを掘削場所に引っ張っていくオフショア船を運航しており、社員数は30人程度で小規模でした。オフィスは、オランダで最も高い高層ビルの上層階にあり、そのビルの近くには、オランダ内外への輸送には欠かすことができない河川があります。オフィスからは常に運航中の船が行きかっているのが見え、こんなに多くの船舶を毎日見る環境ははじめてだったので、とても興奮しました。

では、実際にインターンシップで何を経験できたかをお話したいと思います。

最初の一カ月は営業部門、残りの期間はロジスティクス部門にいました。営業部門では、その会社がどのような事業を行っているのかを知ることからでしたが、その会社についてだけではなく、オランダの文化にも触れることができました。また、実際に見積もりの作成、案件のリスト化、取引先向けのメールマガジンの配信など、実践的な業務も任せていただき、将来的に海外で働くことに対して少し自信を持てたと思います。

ロジスティクス部門では、積極的に業務を担当するというよりは、勉強の場でした。オランダだけでなく、ヨーロッパの物流について学んだり、実際に取引

先である世界でも大手であるフォワーダー企業の倉庫を実際に訪れ、さらには、ロッテルダムの自動化コンテナターミナル内を車で見学し、世界最大レベルのコンテナ船も間近で見ました。

今回のインターンシップでは、短い期間ながらも日本ではなかなか経験できないことに多く触れ、海外の物流というものを一部分でありながら肌で感じる事ができた貴重な経験であったと思います。

## 海洋学実習

海洋資源環境学部 海洋環境科学科3年

田中 創

海洋学実習とは、主にCTDの積み下ろし、データのプロット、NORPACネットによる生物採集を行い手法を学ぶとともに、得られたデータから何その環境を決定している要因になっているのかを考察し、発表する実習である。自分たちが特に熱中した考察は、プランクトンが表層ではなく、それよりも下の深度に溜まるのは何故か、と深層の水が鉛直方向に循環しないのは何故か、という点である。しかし実習中に得られるデータから結論づけられる事は少なく、どれだけ議論を深めても発表では『予想』の範疇を越えることができなかつたのが少し悔しかった。

また、自分たちにとっては初めての"長期"航海であったため、船上での生活はどれも刺激的だった。実習の他にも、寄港のための『オルハン』であったり、食事当番などの仕事分担された。夜は銭湯に行ったり、トランプをしたり、各々の方法で次の日に向けてリフレッシュしたりと、海洋観測には欠かせない船上での集団行動も身についたと感じた。

今回の実習を通して、調査や採集、プロットなどの手法を学ぶだけでなく、南極深層水を肌で感じるなど五感を刺激して知識を身に付ける事ができた。また、今あるデータでどこまでわかるのか、疑問を回収するには他にどのような調査方法があるか、などをデータから自分自身で導き出すことで、研究の基礎力を身につけることができ、海洋資源環境学部2年生として成長を感じることができた実習となった。

## 実習感想記

海洋資源環境学部 海洋資源エネルギー学科3年

鴻巣 真央

皆さん、こんにちは。私の所属する海洋資源エネルギー学科では船や地質に関する事など、様々な実習があります。その中で今回は海洋資源エネルギー学実習Ⅰについて紹介致します。

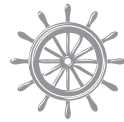
海洋資源エネルギー学実習Ⅰは7月上旬に3泊4日で館山にて行われます。実習内容は主に操船、測量、音響、陸や海の測位などがあります。今回はその中で操船と音響についてご紹介させていただきます。

操船は小型船舶を操縦する実習です。「免許を持っていないのに操船できるのかな?」と思った方がいらっしゃると思います。知っている方もいるとは思いますが、免許を持っている人が一緒にいればある程度は操船できるのです。船は車のように舵をきってもすぐには曲がらず、また、海には道路のような目に見える通り道もありません。そのため操縦する船がまっすぐ目標に向かっているのかも分からず、自分の思い通りに船を動かすのは難しかったです。同時に乗船中の行動や落水者の救助方法についても学びました。

音響ではROVという海中無人潜水機の操縦や、音波を使った海底観測を行いました。ROVはプレステⅣのリモコンを使って操縦し、水中カメラで海底の様子を観察しました。また、海底に向かって音波を出し、跳ね返ってきた音波の特徴から海底に沈んでいるものを観察する方法も学びました。

私たちエネルギー学科の実習は船との安全な付き合い方を学び、授業で学んだ機器を実際に体験するものです。どれも自分の興味を広げられる面白いものばかりです。是非、実習に参加して自分の学びを深めていってください。





# 資格取得に向けて



## 学芸員の資格取得

海洋科学部 海洋生物資源学科4年

大谷 朋己

学芸員とは、自然物を収集・保存し、それら博物館資料を学術研究に役立て、展示によって広く一般に普及していくことを専門とした博物館職員です。

海洋大に入学された皆様の中には、博物館職員として海洋生物の研究や展示に携わりたいと思っている方もいるのではないのでしょうか。海洋大では定められた単位を取ることで、学芸員になるための資格を取得できます。

学芸員課程の授業では、博物館の役割や法令について学び、資料の収集や保存技術、展示や教育プログラムを作る際のポイントについても学ぶことができます。博物館実習では、マリンサイエンスミュージアムや外部の博物館・水族館等で実践的な実習を行います。

展示について勉強することや、お客様と実際に対面し解説をすることは、他の授業では得られない貴重な経験となるでしょう。

定められた単位を取得すれば、あとは博物館職員になるだけ…という訳ではありません。学芸員として働くためには、博物館の仕事や社会的な役割を把握し、自分に何ができるかを考えることが不可欠です。授業や実習を通じてそれらの力を備えておくことが学芸員への第一歩です。

学芸員とは、実際に博物館に働いて初めて得られる称号です。資格を取得したからといって、全ての人学芸員になれるわけではありません。しかし、学芸員の授業を履修することで、「自然物を複数の視点から捉える力」を得られると思いますので、本気で学芸員を目指す方はもちろん、研究職や教職を目指す方、水族館志望の方などもぜひ授業を履修してみたいかたがでしょうか。



## 資格取得に向けて

海洋工学部 海事システム工学科4年

高野 友希

資格の取得は、出来るだけ2年生のうちにとっておくとの大学生活や就職活動が一段と楽になります。というのも、海事システム工学科は3年生になると海技士必修の授業や週に二日もある実験演習で時間に追われることとなります。しかも就職活動が本格的に始まり、自分で勉強する時間の確保は2年生よりはるかに厳しいものとなります。逆を言うと、資格は3年生になるまでにとってしまえば、3年生の会社訪問などの就職活動に余裕が生まれます。

私は、海技士筆記合格と三級海上無線通信士、TOEIC(830点)の取得を就職活動が始まるまでに何とか終えました。もっと早く資格を取得できていれば、就職活動に時間を割くことができたのに、という後悔を感じました。その中で特にきつかったのは、海技士筆記試験です。初めて本を買い、航海、運用、法規の問題に目を通したときの絶望は今でも鮮明に覚えています。その内容に関する知識がほとんど無く問題量も膨大なため、勉強時間をかなり費やしました。ですが、勉強を進めているうちに徐々に理解できるようになり、記憶が定着しやすくなると思います。なので、途中で投げ出さずにやり通すことができれば合格に近づくことができると思います。TOEICの勉強は主にリスニングのシャドウイング、リーディングの英単語を覚えることを約2ヶ月繰り返して、220点あげることができました。皆さん、資格取得に向けて頑張ってください！



# 大学院で学べること



## 海洋管理政策学専攻(博士前期課程)

海洋政策文化学部門 准教授

萩原 優 騎

海洋管理政策学専攻にて、「応用倫理学」を担当しています。応用倫理学とは、生命倫理学、環境倫理学、情報倫理学をはじめとする、高度に科学技術が発達した現代社会の諸問題を扱う倫理学の総称です。

授業は、主に文献講読形式で行います。文献の内容について受講者にプレゼンテーションをしてもらい、続いて担当教員による補足説明や、受講者間でのディスカッションが行われます。受講者からの質問が多かった点や、理解が不十分と思われる点について、講義形式での授業を行うこともあります。講義では、学説の説明だけでなく、私がこれまでに実施した環境問題や災害対策などに関するフィールドワークの成果の一部を紹介するなど、具体例を示すことも心がけています。

扱う文献は応用倫理学にとどまらず、倫理学の古典

や、環境社会学や科学社会学などの周辺領域の研究成果にも広く目を向けます。文献を読み比べてみると、同じ問題にアプローチするにしても、「ある研究領域の視点からはこのように見えるけれども、別の研究領域の視点からはこのように見える」といった視点の違いや、その違いに由来する、それぞれの研究領域の視点の強みや弱みも見えてくるかもしれません。

視点の「比較」という作業は、大学院での学びにおいて、重要な意味を持つと考えます。大学院では、自身の専門に関わる知識を深めなければなりません。しかし、同時に、そこから一旦距離をとって、自らが習得した専門性を多角的に再検討してみるという作業も大切です。近年、本学でも大学院での「教養教育」の必要性が掲げられていますが、その意義の一つは、このような複眼的な視点の獲得にあると言えるでしょう。

なぜ、複眼的な視点が求められているのでしょうか。現代社会が直面する諸問題の多くは、その複眼的な性質ゆえに、特定の領域からのアプローチだけでは物事の全体像を捉えることが難しいからです。そうした理由から、学際的・領域横断的な研究が各所で展開され



本科目でこれまでに扱った文献ならびに今後扱う予定の文献の一部

ています。専門を異にする人々との協働の過程では、自身の研究領域からの貢献だけでなく、研究領域間での議論が重視されます。それはまさに視点の「比較」の作業であり、自身の研究の前提が問い直されることもあります。その意味で、学際的・領域横断的な研究では、深い専門性と複眼的な視点の両立が不可欠であると言えるでしょう。

以上のような問題意識に基づいて、「応用倫理学」では、現代社会が直面している科学技術に関わる諸問題

について、倫理学の視点を中心に、多角的に検討することを試みます。入門書からスタートして、専門性の高い文献へと順番に読み進めていきますので、倫理学関連の科目を履修したことがない学生も歓迎します。むしろ、倫理学を専門としない学生にこそ、複眼的な視点を獲得する機会として、この科目をぜひとも受講してほしいと考えます（もちろん、倫理学を専門的に学びたい学生は大歓迎です）。

## 食品流通安全管理専攻(博士前期課程)

食品生産科学部門 准教授

小川 美香子

大学院で学ぶことは、研究のプロセスとその進め方ですが、大学院で学べることは、あなた次第です。なぜなら、学びとは、主体的なものだからです。そして、主体的に学び、研究することは、迷うことや、辛くて投げだしたくなることもあります。実は、とても楽しいことです。でもこれは、大学院だけでなく、学部でも同じです。

研究とは、より良い世の中を創るためのものです。長い人類の歴史のなかで、先人達が少しずつ少しずつ明らかにしてきたことをもとに、まだ明らかにされていないことを、ほんの少しでも明らかにし、知を前に進め、次の世代に託すことが、研究ではないかと、私は考えています。

学部の卒論研究は、研究室に入り、たいていは、まずは教員や先輩のやり方を倣うこと、次に、倣ったことを身につけ、慣れることから始まります。そして卒業論文を書き上げることで、一通りの研究のプロセスと進め方を経験します。

その後、大学院の博士前期課程に進むと、後輩に教える側になります。加えて、自分自身については、教員や先輩の指導もうけながら、今度は、より主体的に考え、研究を進めていくことが求められます。

大学院での研究の第一歩は、研究テーマの探索です。研究テーマの探索とは、自分の心と向き合うことです。卒論研究の中で、あるいは、日常生活の中で、感心したり、面白いなと思ったり、あれ、何かおかしいぞと感じたら、まあいいか、こんなものだろう、と流さずに、「これは何だ?」「なぜだろう?」と踏み込んで考えてみてください。そこに、研究テーマの種が隠れているかもしれないのです。

研究テーマの種を見つけたら、既に研究されていな

いか調べます（先行研究レビュー）。もし既に様々な色や形の果実が収穫され尽くされていたら、その種は諦め、次の種を探しましょう。もしまだ果実が収穫されていなかったら、あるいは、新しい色や形の果実が収穫できそうだったら、その種はあなたのものです。どんな果実を採りたいか（研究目的）、どのように育てるか（研究方法）、いつまでに何をするか（研究計画）を決めて、大事に育ててみましょう。

海洋大学の大学院博士前期課程には、7つの専攻があり様々な分野の研究が行なわれています。各専攻や研究室の研究内容は、大学ホームページ等で調べて下さい。きっと興味を持てる研究があることでしょう。

食品流通安全管理専攻は、食品流通における安全と安心にかかわる諸問題・諸制度等についての実践的な教育を通して、企業の問題解決や政策提案を行う専門職能を持つ職業人を育成することを目的としています。食品流通や品質管理、トレーサビリティ、衛生管理、HACCP、食品安全規格等、基礎的な知識や実践的な能力を、講義や実地調査、討論型の演習を通して学びます。加えて、学生には、修士論文研究として、専攻分野に関連する研究を、主体的に進めていくことが期待されています。

食品流通安全管理専攻は、もともと、食品産業やその関連産業で、衛生管理や品質管理等の安全管理業務に従事する社会人が学びに来ることも想定して設立されました。修了後にそうした分野で活躍したいと思った学部からの進学者もおり、大勢のOBOGが食品産業や行政機関等、幅広い分野で活躍しています。

皆さん、学部生のうちから、色々な事に興味をもってください。関心のある専門分野は勿論のこと、幅広い分野のこと、日本や世界のことにもアンテナをめぐらせ、何か心に動いたら、踏み込んで考えてみてください。卒業後、すぐに大学院に進学するにしても、一旦社会に出るにしても、主体的に学び、それがどんなに楽しいかを経験して欲しいと願っています。

## 応用環境システム学専攻(博士後期課程)

海事システム工学部門 教授

岩淵 聡 文

かつて日本には「末は博士か大臣か」という言葉があった。大学あるいは大学院進学自体が非常に珍しい時代であって、高等教育を受ける機会に恵まれた若者に対する世間の期待を表現していたフレーズであるといえる。すでに日本国内の大学進学率は約50パーセントとなり、大学に入学しただけで「末は博士か大臣か」という声はもう聞かれなくなった。しかし、修了すれば原則として博士号が授与される大学院博士後期課程への進学率は、日本人全体では1パーセントにも満たないというのが現状である。驚くべき少なさである。さらに由々しき事態として、日本人の博士後期課程への進学者に限って言えば、この進学率が近年、横ばいあるいは減少の傾向を見せている。これを埋めているのが、日本の大学院への海外からの留学生であり、東京海洋大学大学院においても、実に50名以上の留学生が博士後期課程で学んでおり、地球の将来を担う人材としてこれからの活躍が刮目される。

世界に目を向ければ、博士後期課程で博士号取得を目指す大学院生数は増加の傾向にある。これはとりわけ、米国や中国において著しい。20世紀後半から各学問分野において急速な専門分化が進み、AIの開発や生命科学の進展を例にあげるまでもなく、学問の高度化には21世紀になってさらに拍車がかかってきている

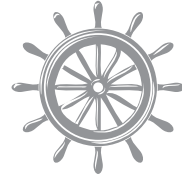
からである。世界的には、専門的人材がますます必要とされる時代に入ってきているのである。もちろん、専門家になるためには、大学院で博士号を取得するという方法だけが唯一のものでない。しかしながら、グローバル・スタンダードでは、専門研究者となる王道は、学部から大学院へ進学して、修士号、さらには博士号へ向かうという流れであり、過去の研究の涉猟、地道な実験やフィールド・ワークの積み重ね、論理の一貫した論文の発表というプロセスが、どの分野においても基本的にはあまねく要求される。

日本人学生が大学院、とりわけ博士後期課程への進学を躊躇する理由の一つとして、博士号の取得者に対する日本社会特有の誤解が膾炙しているという事実は否定できない。しかし、社会が研究者あるいはその研究成果をどのように評価するのかという視点も重要ではあるが、一方で、研究成果やそこから生み出されるイノベーションが逆に社会自体を変えていくという時代に入ってきているという認識も大切である。留学生にはもとより、このような気概を持って日本において勉学に励んでいるという傾向が読み取れる。学問に国境はないが、専門家の争奪にも国境が消滅しつつあり、一時代前は、国連関連機関などの国際公務員への入り口は修士号であったが、最近では博士号が要求される場面がほとんどとなってきている。おりから、国連は2021年から2030年までを「持続可能な開発のための海洋科学の10年」に設定した。人類の未来のために、海に関連した高度な研究人材がさらに求められる歴史の節目に我々は立っているのである。



ユネスコ本部における水中考古学大学連携ネットワーク年次会合





# 卒業論文・修士論文への 取り組み方

## 卒業論文への取り組み方

大学院海洋科学技術研究科 海洋システム工学専攻1年

高林 遼太郎

4年生では就活、院試といった大事な節目に加えて卒業論文という大きな課題が待ち受けています。卒業論文を滞りなく順調に進めるためには、毎日研究室に足を運び、積極的に実験や研究に取り組むことをお勧めします。過去の卒業生の卒業論文や、企業や他大学の先生の書いた論文を多く読むことで、研究への理解を深めるだけでなく、自分の卒業論文を執筆する際により円滑に進めることができるようになります。また、卒業後、大学院への進学を考えている人は、学会やセミナーに参加したり論文を出したりする機会があれば積極的に挑戦してみてください。私は学部4年生の11月に学会で発表する機会をいただきました。初めての経験で、学会発表のための追加実験や発表練習においては苦戦する点多々ありました。しかしながら、先生および先輩方からの多くの助力をいただきながらも学会で発表をした経験があったからこそ、12月の卒論発表会や、卒論論文の執筆は大きな問題もなく、順調に進めることができたと考えています。また、自分の研究以外の発表を聞くことで、知識の幅を広げるだけでなく、自分の研究への理解がさらに深まったと感じました。学生最後の1年間を今後の研究や就職した後に活かすことができるよう、充実したものにしてください。

## 卒業論文への取り組み方

大学院海洋科学技術研究科 海洋資源環境学専攻1年

折田 清隆

私が所属する研究室では、海底鉱物資源を海面まで効率的に運搬する方法の開発を行っています。その中で、私は模型実験において鉱石モデルの移動速度を計測する方法の開発を行いました。ここでは、私の1年間の経験を基に、卒業論文を執筆する上で重要だと感じた2つの項目について述べます。



1つ目は学会の利用です。各学会が開催する研究発表会やシンポジウムに積極的に論文を投稿し、それらをまとめた物を卒業論文にすることを推奨します。研究成果を数ヶ月に一度の頻度で投稿論文として文章化することで、早い時期に卒業論文の大枠が完成します。それにより、考察をより深め、卒業論文の完成度を高めるための時間的余裕が生まれます。また、学会発表を通じて得た学外の専門家からのアドバイスや他の学生の上質な論文作成や発表からの刺激は、卒業論文の質の向上に大きく寄与します。

2つ目は周囲の人々との相談・議論です。研究は、先生方はもちろん、共同研究先の企業、研究室の先輩等の多くの人々の協力を得て進めます。高度かつ幅広い知見を持つ彼らとの相談・議論が、新しいアイデアや深い考察を生む契機になります。特に、研究が停滞している時ほど、課題を打破するために重要です。

以上の2点が、私が卒業論文を書く上で重要に感じた項目です。本稿が少しでも皆様の卒業論文執筆の手助けになれば幸いです。



## 修士論文への取り組み方

大学院海洋科学技術研究科 応用環境システム学専攻1年  
黒田真央

修士論文は、卒業論文とは異なり、研究を行うために自ら大学院に進学した人の論文になります。ですから、卒業論文以上に専門的な知識や、その成果が求められることになります。

修士論文に取り組んだ際、私が大事だと思ったことは二つあります。

一つ目は、二年間の見通しを持つことです。実際に研究をしてみると、二年というのはあっという間です。テーマ決め、実験や調査、解析、得られた結果を論文にまとめる、といった大まかなスケジュールを二年間で立ててみてください。勿論就活や他の研究も入りますので、その計画通りにはいきませんが、大体どの時期までに何が終わっていないといけないのかが分かる

はずです。余裕を持って研究を行っていくことは、修士論文の質を高めることにも繋がります。

二つ目は、確固とした研究目的を定めることです。修士で行う研究の目的がしっかりと定まっていれば、その目的を達成するためにどのような調査や実験を行う必要があるのかが自ずと分かってきます。論文において大事なものは、その研究で得られた結果と、そこから導き出される考察です。研究目的が定まらず、必要性のない実験や調査によって時間が足りなくなり、結果や考察にまで到らない人もいます。自分が修士課程の二年間でどのような研究を行い、どのような成果を出したいのか、指導教員とも話し合いながら、方向を定めてみてください。

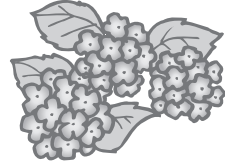
修士論文は思っている以上に労力があるものです。是非、自分が納得のいく修士論文を書き上げられるように頑張ってください。



筆者と研究サンプルとしていた"ミスウオ"



## 卒業生より



# 業界で活躍している OB・OGの方々

### 社会人になって思うこと

2017年3月 東京海洋大学大学院  
海洋システム工学専攻 修了  
2017年4月 横河電機株式会社 入社

高 畠 京 平

新しい年号が発表された日、私は社会人3年目になりました。2年前に海洋システム工学専攻を修了したと思うと、この2年間は大学院での2年以上にあつという間に過ぎてしまったという印象です。まだまだ短い社会人生活ですが、在学生の皆様のご参考になれば幸いです。

平成29年4月、私は横河電機株式会社に入社しました。横河電機は1915年に創設され、プラントの制御事業を中心に、世界中の企業に製品を提供しています。大学院での研究が、この会社を志望したきっかけです。大学院では、電池推進船らいちょうを使って、船舶の遠隔操作・監視が可能なシステムの開発を行いました。その、らいちょうに使われていたコントローラが横河電機製のコントローラでした。これまで学んだことを仕事に活かしたいという思いから、横河電機の採用試験を受けました。

就職活動時、私は開発部署を希望していましたが、入社後に配属されたのはマーケティングを主に行う部署でした。石油・ガス産業において自社の新しいビジネス機会を探したり、ニーズのある新しいソリューションを社内外の方と開発したりするような部署です。私はそこで、市場調査や市場調査を基にした新しいソリューションの価値提案、他にも開発のサポート等を行っています。石油・ガス産業は世界中に市場があるため、海外出張にも行きます。そのため、英語でディ

スカッションする機会も多くあり、英語をもっと勉強しておけばよかったなあ、と思う日々です。希望した部署と違う部署に配属されましたが、新しく学ぶことが多く、チャレンジングな業務を任されることも多いため、非常にやりがいを感じています。大学で学んだことが直接、業務に活かしているとは言い切れませんが、大学の講義で得た知識や研究室での経験が業務を遂行するにあたって、いい影響を与えていることは間違いないと思っています。

社会人になって一番感じたことは、自由な時間が少なくなることです。学生のころはある程度、自由な時間を自分で作ることができるといいますし、「他の大学に比べて短い」とはいいつつも、長期休暇があります。しかし、就職後の自由な時間は、平日の定時後か土日だけで、長期休暇のようなまとまった休みといえば、1週間程度です。1週間の休みも取れない企業もたくさんあります。勉強でも遊びでも、自分のやりたいことに多くの時間が使えるのは大学生までと思っていてもいいかもしれません。少しでもやってみたいと思っていることがあれば挑戦してみてください。挑戦したことで世界が広がることもあると思いますし、将来、役に立たなさそうなことでも、思いもよらないところで役に立つこともあります。偉そうなことは言いたくありませんが、在学生の皆様には自由に楽しめる短い学生生活を存分に楽しんでいただきたいと思います。



## 水産教育に携わって

2008年3月 東京海洋大学海洋科学部海洋環境学科 卒業  
2010年3月 同大学院海洋科学技術研究科 修了  
2010年4月 北海道小樽水産高等学校 着任

高橋 憲太

私は2010年3月に本学の修士課程を修了し、同年4月に北海道小樽水産高校へ赴任しました。在学中は海洋環境学科浮遊生物学研究室に籍を置き、主に動物プランクトンの行動について研究を行うとともに、青鷹丸や海鷹丸に乗船し様々な調査航海に同行させていただきました。現在は水産食品科の教諭として、水産物加工品の製造や品質管理について教えています。

私は2004年に東京海洋大学の一期生として入学しました。私自身が高校の普通科を卒業したこともあり、入学当初は水産教員になりたいと強く思っていたわけではありませんでしたが、教員免許状を取得しておいて損はないという程度の思いから教職に関する単位を取得し、4年間で教員免許状を取得しました。また1年次よりヨット部に所属し、週休日や長期休業中は神奈川県の三浦市や葉山町でセーリングの練習やレースに明け暮れていました。4年次に希望していた浮遊生物学研究室へ配属され研究室での生活が始まると、研究と部活動に追われ、忙しいながらも充実した生活を送りました。もともと大学院への進学を希望していたこともあり、4年次には自分の職業選択についてほとんど考えていませんでした。その後大学院に進学し、引き続き研究活動を行うとともに、社会人ヨットクラブに所属し、ディンギーのレース活動も継続しました。

自分の職業について本格的に考え始めたのは修士2年目の春でした。就職活動を始めるとは自分の職業に

ついて深く考えることはありませんでしたが、活動を行う中で水産教員として海や水産に関することを高校生に教えることを職業にしたいと思うようになりました。またヨット部の顧問として、今後もヨット競技に携わっていきたいと考えていたこともこの職業を選んだ大きな理由でした。

実際に教育現場で生徒と対峙してみると、想像していた業務内容とは大きく違っていました。高校の教員という教科のイメージが強く、「何を教えているのか？」について注目されがちです。しかし、実際には教科指導はもちろん、生活指導や進路指導に当たっている時間も多く、その業務内容は多岐に渡ります。特に本校は比較的都市部である小樽市に立地していることもあり、職業高校とはいえ、実際に入学生全員が水産関連の仕事に就く訳ではありません。もちろん高校のカリキュラムは将来の水産関連産業を担う人材の育成を目的に組まれていますが、地域に根付き地域の方々から必要とされる学校であるためには、教科指導のみならず、生きるために必要な力の育成がとても大切です。このような状況であるからこそ大学、大学院に籍を置いていた6年間で学んだこと、経験をさせていただいたことにより自身の視野が広がり、それが現在の職業に生かされていると感じています。

在校生の皆さんにおかれましても、学生という貴重な時間を使い多くのことにチャレンジしていただきと思います。それが結果として自身の視野を広げ、これまでとは違った物の見方、考え方ができるようになることにつながります。そして、それはきっと将来どのような仕事についても役立つはずで、是非、自分の興味関心のあることにどんどんチャレンジして、充実した学生生活を送ってください。



授業風景

# 新任教員の紹介



海洋生物資源学部門(水族栄養学)助教  
壁谷尚樹

平成31年4月1日より海洋生物資源学部門(水族栄養学)の助教に着任した壁谷尚樹(かべやなおき)です。

私は、平成26年に本学で学位を取得した後、イギリス・スターリング大学および東京大学に博士研究員として在籍し、海洋生物の脂肪酸代謝について研究を進めてきました。近年、健康に良い脂質としてEPAやDHAといった脂肪酸がメディアなどでも大きく取り上げられています。特に、サバなどの青魚にこれら脂肪酸が豊富であることが知られていますが、実は多くの海産魚は、自らこれら脂肪酸を合成することができず、餌由来のEPAやDHAを蓄積しているに過ぎないことが分かっています。では、海洋ではどのような生物がEPAやDHAを合成しているのでしょうか？私はこれまで、魚類はもちろん、イカ・タコや貝類を含む軟体動物、ゴカイなどを含む環形動物、ウニなどを含む棘皮動物など様々な無脊椎動物を対象として、その脂肪酸の合成能力を解析してきました。一連の研究から、各生物が保持するユニークで多様性に富んだ合成能力が明らかになってきています。今後はこれら研究から得られた基礎的知見を養殖に用いる餌の開発などに役立てたいと考えております。

これまで、世界中の研究者とやり取りしながら研究を進めてきました。その中で培った国際感覚を元に、世界で活躍できる研究者の育成、文化的背景の異なる人と対等に渡り合うスキルを持った人材の育成に邁進する所存です。これからどうぞよろしくお願いいたします。



食品生産科学部門 助教  
小山寛喜

平成31年4月1日付で学術研究院食品生産科学部門の助教として着任致しました小山寛喜と申します。新天地での

生活も1ヶ月が過ぎ、徐々に慣れてきたところです。こちらに赴任するまでは、4年半ほど広島大学大学院生物圏科学研究科にて助教を務めており、研究や教育に励んでおりました。品川キャンパスは都会の真ん中にあるため、今までとは全く異なる雰囲気であり、新鮮な気持ちで毎日を過ごしております。

さて、私の研究テーマですが、まずクルマエビなどの食用のエビ類の筋肉を対象とした研究をしております。筋肉の主要構成成分であるミオシン重鎖というタンパク質を遺伝子の面から調べており、種によってその遺伝子にどのような違いがあるのかや、成長に伴う発現量変化などを研究しています。将来的には、エビ類の筋肉に特有の歯ごたえが何に因っているのかなどの秘密が明らかになればと考えております。

また、対象とする生物は変わりますが、頭足類の神経系に存在するD型のアスパラギン酸やその生合成酵素であるアスパラギン酸ラセマーゼに関する研究も行っております。これは私が卒論のテーマとして与えられたもので、なかなか難しく苦労していますが、非常に面白い分野なのでいつか結果を出してやろうと意気込んでおります。

最後になりますが、本学でも今までに得た知識や経験を十分に生かし、研究や教育など様々な分野において力を注いでいきたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

海事システム工学部門 助教

福田 巖



2019年4月1日付で海事システム工学部門に着任しました福田巖です。

本学の前身である東京商船大学卒業後、乗船実習課程を経て東京海洋大学大学院博士前期・後期課程にて学びました。大学院修了後は、本学も提携を結んでいる韓国海洋大学の研究員として2年半ほど海上交通リスクの研究や、韓国政府のプロジェクト研究・調査等を行なっておりました。その後、静岡にある東海大学海洋学部で5年間ほど航海士育成や研究に携わった後、機会を頂き本学へ着任することとなりました。

イギリスに行くために休学していた期間や、乗船実習課程を含めると約11年間越中島で過ごしておりましたので、また戻ってこられたことは非常に感慨深いものがあります。

研究においては本学名誉教授の今津先生が考案されたOZT (Obstacle Zone by Target)を用いて船舶の衝突ゾーンの見える化、海上交通分析やそれに関連した船舶の津波避難対策について取り組んでおります。また、博士課程で取り組んでいた自律型真方位システムについても研究を再開し、将来的にはGPS/GNSSのジャミングやスプーフィングに対しての警告や位置信号の補間ができるような低廉なシステム研究・開発につなげていければと考えております。

興味がございましたら、是非一緒にやりましょう。質問だけでも歓迎いたします。私自身も皆さんと共に学びながら、日本の教育・研究の発展に貢献できるよう努力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



海洋環境科学部門 助教

真壁 竜介



2019年4月1日に海洋環境科学部門の助教に着任しました真壁竜介です。3月までは国立極地研究所の助教でしたが、この度クロスアポイントメント教員として極地研と本学、両機関の助教として研究・教育活動をするようになりました。

専門は海洋生態学、生物海洋学で、特定の生物を深く追求するよりも、どちらかと言えば生物同士の関わり合いや生態系のシステム全体に興味を持っています。これまでは日本沿岸域、北極海、南極海を対象としてきましたが、現在は南極海生態系と生物活動を介した

炭素循環研究に取り組んでいます。

本学との最初の接点は2007年の海鷹丸南極航海乗船で、それから2013年、2015年、2016年、2018年と5回の海鷹丸南極航海に参加して、学生らと共に海洋観測を行ってきました。次回の南極航海乗船は来年度の予定です。南極海のプランクトンは、ペンギンやクジラを支える餌としてだけでなく、地球環境の変動にも影響するほど海が二酸化炭素を吸収する原動力として重要と考えられています。この重要な課題に学生とともに取り組みながら研究の楽しさと達成感を伝えたいと思います。

また、これまでは本学の教員と連携して南極海生態系研究を実施し、それを通して学生指導を行ってきましたが、これからは本学の教員としてより強い責任で教育に取り組みたいと考えています。よろしく願いいたします。



海洋資源エネルギー部門 教授

Laurent Seuront



As a youngster in the 70s, I came across the beauty and mysteries of the ocean through the TV series *《The Undersea world of Jacques Cousteau》* and I knew right away that my life would be devoted to entangle the complexity of marine life patterns and processes. Initially trained as a Biological Oceanographer, I went through a staggering “applied mathematics” master from the University Pierre & Marie Curie to gain further abilities to communicate with physicists, and subsequently went through a PhD that aimed at quantifying the multifractal properties of ocean physical (temperature and salinity) and biological (phytoplankton and zooplankton) properties. In other words, my objectives was to assess if plankton organisms (phytoplankton and zooplankton) were passively distributed at micro-scales (typically below 1 metre) even when they were under the influence of turbulent fields and consensually believed to be passively distributed. This work, which was at the interface of biology and physics, and used numerous concepts and methods derived from the field of nonlinear physics, showed that plankton organisms were able to exhibit a very

specific level of distribution, independently of turbulence. As all organisms face the constant challenge to find food and sexual partner while avoiding predators, I progressively focused my research towards the understanding of the consequences of non-uniform distribution of various natural (e.g. food, conspecifics, phytoplankton toxins) and anthropogenic (e.g. hydrocarbons, pharmaceutical compounds, microplastic leachates) stimuli on the behaviour of organisms ranging from minute microbes to large mammals including humans. This research aims at classifying behavioral complexity as a function of the nature (i.e. quality and quantity) of stimuli, and ultimately at using behavioural complexity as a diagnostic tools to assess the health of organisms and the quality of their environment.

● ● ●

---

海洋資源エネルギー学部門 助教

尾張 聡子

---

2019年4月から海洋資源エネルギー学部門の助教に着任した尾張聡子です。

私の専門は地球科学で、その中でも海洋地球化学の

分野を中心に研究をしてきました。研究手法として、海底の掘削やコアリングを行い、海底堆積物の間隙中にある水（間隙水）を化学的な手法で分析し、海底下でどのような化学反応が起きているか、どのように水が流動しているかを様々な元素を使って調べています。

現在までに研究対象としてきた海域は、ニュージーランドのヒ克蘭ギ沈み込み帯や、スマトラ沖のスンダ海溝などのプレート沈み込み帯、日本海東縁の表層型ガスハイドレート胚胎域を対象に水の分析を行ってきました。プレート沈み込み帯やガスハイドレート胚胎域では、相対的に水の動きが活発であるため、深度プロファイルを取ってみると、複雑な濃度・同位体比の変化を示すような、非常に面白いデータを取ることができます。

海洋堆積物は地球上で最大の物質の貯蔵庫であり、多くの元素が海洋堆積物の間隙水に溶存しています。また間隙水は、それ自体が物質の反応媒体でありながら、溶存成分を輸送する媒体にもなります。この水の動きや成分を捉えることで、海底下でどのような元素が、どれほどの速度で移動し、どのような場所に濃集するのかを知る手掛かりになります。

このように水を中心とした研究を行ってきましたが、今までに培った様々な経験を活かし、学生の皆さんと新たな研究にもチャレンジしたいと考えています。これからどうぞよろしくお願いいたします。

● ● ●



# 2018年度 自治委員会・学生会 報告書

## ●2018年度 品川キャンパス自治委員会 後期定例学生大会報告書

品川キャンパス自治委員会議長  
松村 岳 東

### 1. 各委員会の活動報告および決算報告

各委員会の活動報告および決算報告を行い、全ての委員会の報告が承認されました。

報告内容は以下のとおりです。

#### ●サークル委員会

|                          |         |
|--------------------------|---------|
| 〈収 入〉                    | (円)     |
| 前期繰越金                    | 179,594 |
| 罰金(委員会欠席による徴収2,000円×2団体) | 4,000   |
| 運動部貸付金 総返金額              | 74,184  |
| 計                        | 257,778 |

|                  |        |
|------------------|--------|
| 〈支 出〉            |        |
| フレッシュマンセミナー物品配送費 | 16,867 |
| 資料制作費            | 2,293  |
| 計                | 19,160 |

|            |         |
|------------|---------|
| 〈来年度への繰越金〉 |         |
| 収入合計       | 257,778 |
| 支出合計       | 19,160  |
| 来年度繰越金     | 238,618 |

### 2. 2018年度自治会費分配報告について

|                   |           |
|-------------------|-----------|
| 〈収 入〉             |           |
| 自治会費              |           |
| 新入生(20,000円×291人) | 5,820,000 |
| 編入生(10,000円×7人)   | 70,000    |
| 未納入者(20,000円×21人) | -420,000※ |
| 計                 | 5,470,000 |

|                 |           |
|-----------------|-----------|
| 〈支 出〉           |           |
| サークル委員会 (72.5%) | 4,052,750 |
| 海鷹祭実行委員会 (25%)  | 1,397,500 |
| 学生委員会 (2.5%)    | 139,750   |
| 印刷機積立代 (固定)     | 250,000   |
| 計               | 5,840,000 |

※収入不足分については前年度からの繰越金を補填

### 3. 2019年度自治会費分配案について

|                   |           |
|-------------------|-----------|
| 〈収 入〉             |           |
| 自治会費              |           |
| 新入生(20,000円×291人) | 5,820,000 |
| 編入生(10,000円×7人)   | 70,000    |
| 計                 | 5,890,000 |

|                 |           |
|-----------------|-----------|
| 〈支 出〉           |           |
| サークル委員会 (72.5%) | 4,089,000 |
| 海鷹祭実行委員会 (25%)  | 1,410,000 |
| 学生委員会 (2.5%)    | 141,000   |
| 印刷機積立代 (固定)     | 250,000   |
| 計               | 5,890,000 |

### ●2018年度 海洋工学部学生会報告書

海洋工学部 学生会 事務局長  
横山 春之

|                           |             |
|---------------------------|-------------|
| 〈収 入〉                     |             |
| 前年度繰越金                    | 4,731,854円  |
| 学生会費                      | 5,320,000円  |
| (新入生124人×40,000円          |             |
| 編入生1人×30,000円 8人×20,000円  |             |
| 在校生4人×40,000円 1人×10,000円) |             |
| 利息                        | 26円         |
| 前年度未執行戻入金                 | 314,887円    |
| 計                         | 10,366,767円 |

|           |            |
|-----------|------------|
| 〈支 出〉     |            |
| サークル活動支援金 | 3,701,557円 |
| 海王祭実行委員会  | 2,472,480円 |
| 学生会事務費    | 48,545円    |
| 計         | 6,222,582円 |

|            |             |
|------------|-------------|
| 〈来年度への繰越金〉 |             |
| 収入合計       | 10,366,767円 |
| 支出合計       | 6,222,582円  |
| 来年度繰越金     | 4,144,185円  |



大学祭特集

実行委員長から



# 海王祭の紹介



## 第59回 海王祭を終えて

第59回海王祭実行委員会 委員長  
海洋工学部 海事システム工学科3年

鈴木 涼平

6月1日、2日に第59回海王祭が開催されました。

今年のご来場者数が昨年比：102.1%で7341名のお客様にご来場いただき大盛況のうちに終了いたしました。両日ともに天候に恵まれ、屋内外問わず各種企画で賑わいを見せ、ご来場いただいた方には存分にお楽しみいただけたのではないかと考えております。海王祭にお越しいただいた方の中には「他大学の学園祭とは一味違うな。」と感じた方もいらっしゃるかもしれません。海王祭では大学の実験・実習設備の公開や、船への試乗企画や実際に海運業界で活躍されている方々にご協力をいただいた講演会や展示企画といった日本唯一の海洋系総合大学という特徴を生かした企画を実施いたしました。

第59回海王祭実行委員会では今年のテーマを『O』として1年間準備をしておりました。『O』という形は“輪”の形をしており、弊委員会から海王祭に携わる大学や海事系企業様にご来場いただくお客様や海洋大を目指す学生や本学学生を1つに繋ぎたいとの思いをこのテーマに込めました。海王祭が終了した今、振り返ってみると少しばかりは、海王祭実行委員会の運営指針である『海事普及』が達成されたのではないかと感じております。

私が実行委員長という立場を務めさせていただきました海王祭実行委員会は75名という大所帯で当日を迎えました。第59回海王祭が無事に幕を下ろすことができたのは「海王祭を成功させたい」という目標に委員全員が向かってくれたからこそ成し得たものだと思います。

最後になりましたが海王祭開催にあたりご協力を賜りました皆様にご来場いただきました方々にこの場をお借りして御礼を申し上げます。ありがとうございました。



海王祭実行委員会メンバー

# ニュース & トピックス

## 平成30年度学位記・修了証書授与式を挙行了しました

平成31年3月25日（月）メルパルクホールにて、平成30年度学位記・修了証書授与式を挙行了しました。

学部生442名、水産専攻科生43名、博士前期課程218名、博士後期課程27名、計703名に学位を授与

しました。

竹内学長による式辞の後、本学（旧東京水産大学）卒業生である小野寺衆議院議員よりご祝辞をいただき、続いて、山本海洋会会長よりご祝辞をいただきました。



竹内学長による式辞



小野寺衆議院議員による祝辞



山本海洋会会長による祝辞



学位記授与

## 平成30年度学生表彰授与式、学業優秀学生奨学金授与式、 学会等各賞表彰式を行いました / 平成31年3月22日

東京海洋大学学生表彰規則に基づき、入学以来よく  
勉学に努め、優秀な学業成績を収めた学部学生8名、課  
外活動において特に優秀な成績を収めた学部学生1名、  
社会活動において優れた評価を受け、本学の名誉を高

めたと認められる学部学生1名並びに研究活動において  
特に顕著な研究成果を収めた学生14名に対して、日頃  
の努力を称え、表彰状および記念品が授与されました。



学生表彰授与式（左：学部生、右：大学院生）

東京海洋大学学業優秀学生奨学金規則に基づき、成  
績優秀な博士前期課程2年次在籍者で博士後期課程に進

学する10名及び国家公務員採用総合職試験合格者16  
名へ奨学金の目録が授与されました。



学業優秀学生奨学生授与式

特に顕著な学業成績を収めた学部学生22名、大学院  
学生1名に対して、以下に記載した各学会等の表彰状  
および副賞が授与されました。

海洋会「海洋会賞」、日本機械学会「畠山賞」、日本船  
舶海洋工学会「奨学褒章」、日本航海学会「奨学褒章」、  
空気調和・衛生工学会「振興賞学生賞」、海技教育財団  
「会長賞」、日本マリンエンジニアリング学会「優秀学  
生奨励賞（山下勇賞）」、日本物流学会「物流研究奨励賞」



学会等各賞表彰式

## 平成31年度 入学式を挙りました

平成31年度入学式が4月5日（金）、メルパルクホールにて挙行されました。

今年度は、学部474名、水産専攻科38名、乗船実習科42名、博士前期課程224名、博士後期課程23名、計801名の学生が入学し、新たな一步を踏み出しました。竹内学長は式辞で、本学の前身である水産講習所卒業生（後の通商産業大臣）である高碓達之助の人生訓を紹介し、卒論や研究で壁に直面したときも、常識にとらわれず、一から考え直すことで新たな展開が見えてくると述べました。

また、本学卒業生である小野寺五典衆議院議員から

ご祝辞をいただき、後輩となる学生達へ大きな励ましをいただきました。続いて、三菱マテリアル株式会社友森榮様より、これから学生たちが学ぶ分野は「一生の仕事」として取り組むにふさわしいものであること、また、様々な活動を通して大きく、深くなった「人の輪」は、やがて生涯にわたって人生を支える「大きな果実」となるなどのお話をいただきました。

入学式終了後、サプライズゲストとして本学名誉博士・客員准教授のさかなクンが登壇し、新入生を大いに盛り上げました。



竹内学長の式辞



入学生代表宣誓



名誉博士・客員准教授のさかなクンが登壇

# 平成30年度卒業者の就職先

## 海洋科学部・水産専攻科

| 業種    | 企業名                 |
|-------|---------------------|
| 農業、林業 | 社台スタリオンステーション       |
| 漁業    | 大洋エーアンドエフ株式会社       |
|       | 千葉水産                |
| 建設業   | OESアクアフォーコ株式会社      |
|       | ニッスイマリン工業株式会社       |
|       | 森永エンジニアリング株式会社      |
| 製造業   | 株式会社アルビオン           |
|       | 株式会社伊勢福             |
|       | 一番食品株式会社            |
|       | イフジ産業株式会社           |
|       | 株式会社STIフードホールディングス  |
|       | エム・シーシー食品株式会社       |
|       | MCフードスペシャリティーズ株式会社  |
|       | 株式会社エレメントルール        |
|       | 株式会社大月真珠            |
|       | 株式会社オカムラ            |
|       | 株式会社科学飼料研究所         |
|       | 株式会社キミカ             |
|       | 協同乳業株式会社            |
|       | 共立製菓株式会社            |
|       | コクヨ株式会社             |
|       | サーモス株式会社            |
|       | 株式会社J-オイルミルズ        |
|       | 株式会社島津製作所           |
|       | 株式会社新来島どつく          |
|       | 高砂香料工業株式会社          |
|       | 千葉製粉株式会社            |
|       | 東洋冷蔵株式会社            |
|       | ニコニコのり株式会社          |
|       | 株式会社日洋              |
|       | 日本化学工業株式会社          |
|       | 日本水産株式会社            |
|       | 日本製粉株式会社            |
|       | 日本パリソン株式会社          |
|       | 日本ライフライン株式会社        |
|       | 株式会社ヒガシヤデリカ         |
|       | マリンフーズ株式会社          |
|       | 株式会社Mizkan Holdings |
|       | 三菱重工業株式会社           |
|       | 森永乳業株式会社            |
|       | ヤーマン株式会社            |

| 業種                         | 企業名                    |
|----------------------------|------------------------|
| 製造業                        | 山崎製パン株式会社              |
|                            | 横浜冷凍株式会社               |
|                            | 株式会社理研ビタミン             |
|                            | ロックペイント株式会社            |
| 電気・ガス・熱供給・水道業              | わらべや日洋株式会社             |
|                            | 大陽日酸株式会社               |
|                            | 地方共同法人日本下水道事業団         |
| 情報通信業                      | 丸の内熱供給株式会社             |
|                            | 株式会社アドバンスドシステムテクノロジー   |
|                            | イーソル株式会社               |
|                            | NECネットエスアイ株式会社         |
|                            | クリオカ株式会社               |
|                            | 株式会社ソニー・ミュージックエンタテイメント |
|                            | 株式会社トーハン・コンピューター・サービス  |
|                            | 株式会社フォックスネット           |
|                            | 株式会社マイクロウェブ            |
|                            | 運輸業、郵便業                |
| NSユナイテッド海運株式会社             |                        |
| 株式会社オフショア・オペレーション          |                        |
| 海洋技術開発株式会社                 |                        |
| 鹿児島船舶株式会社                  |                        |
| 共同船舶株式会社                   |                        |
| ケイラインローローバルクシップマネージメント株式会社 |                        |
| 株式会社商船三井                   |                        |
| 商船三井客船株式会社                 |                        |
| 商船三井フェリー株式会社               |                        |
| ショクユタンカー株式会社               |                        |
| 大盛丸海運株式会社                  |                        |
| 田淵海運株式会社                   |                        |
| 東海汽船株式会社                   |                        |
| 内外日東株式会社                   |                        |
| 日本海洋事業株式会社                 |                        |
| 日本郵船株式会社                   |                        |
| 八馬汽船株式会社                   |                        |
| 東日本旅客鉄道株式会社                |                        |
| 株式会社二葉                     |                        |
| 卸売業、小売業                    | マルエーフェリー株式会社           |
|                            | 明治海運株式会社               |
|                            | 伊藤忠食糧株式会社              |
|                            | ANAセールス株式会社            |
|                            | エノテカ株式会社               |
| 株式会社カネトモ                   |                        |
| 株式会社タケショー                  |                        |

| 業 種                 | 企 業 名                |
|---------------------|----------------------|
| 卸売業、小売業             | 豊通食料株式会社             |
|                     | ニチモウ株式会社             |
|                     | 株式会社マルイチ産商           |
|                     | 三菱食品株式会社             |
|                     | 株式会社ラクトジャパン          |
| 金融業、保険業             | 農林中央金庫               |
|                     | 三井住友海上火災保険株式会社       |
| 学術研究、<br>専門・技術サービス業 | 株式会社沿岸生態系リサーチセンター    |
|                     | 一般財団法人海技振興センター       |
|                     | 国立研究開発法人海洋研究開発機構     |
|                     | 株式会社環境総合テクノス         |
|                     | 一般社団法人グローバル人材育成機構    |
|                     | 一般社団法人食品環境検査協会       |
|                     | 株式会社スタッフサービスエンジニアリング |
|                     | WDB株式会社エウレカ社         |
|                     | 一般財団法人日本食品分析センター     |
|                     | UTテクノロジー株式会社         |
|                     | レイス株式会社              |
|                     | 教育、学習支援業             |
| 静岡県立焼津水産高校          |                      |
| 島根県教員               |                      |
| 長崎大学                |                      |

| 業 種         | 企 業 名               |
|-------------|---------------------|
| 教育、学習支援業    | 株式会社MAXISエデュケーション   |
| 宿泊業、飲食サービス業 | エームサービス株式会社         |
|             | がんごフードサービス株式会社      |
| サービス業       | 株式会社鳥貴族             |
|             | 株式会社JAL グランドサービス    |
| 複合サービス事業    | 聖光寺                 |
|             | 株式会社オアシスライフスタイルグループ |
| 公 務         | 全国共済水産業協同組合連合会      |
|             | 海上自衛隊               |
|             | 国土交通省               |
|             | 水産庁                 |
|             | 農林水産省               |
|             | 千葉県                 |
|             | 東京都                 |
|             | 徳島県                 |
|             | 栃木県                 |
|             | 横浜市                 |
|             | 東京都板橋区              |
|             | 東京都品川区              |
|             | 東京都中央区              |
|             | 東京都練馬区              |

## 海洋工学部・乗船実習科

| 業 種   | 企 業 名                   |
|-------|-------------------------|
| 建 設 業 | 国際ケーブル・シップ株式会社          |
|       | 五洋建設株式会社                |
|       | 澁谷工業株式会社                |
|       | 三菱日立パワーシステムズインダストリー株式会社 |
|       | 深田サルベージ建設株式会社           |
| 情報通信業 | 株式会社NID・MI              |
|       | 株式会社コンピュータマネジメント        |
|       | 株式会社東洋信号通信社             |
|       | 日軽情報システム株式会社            |
| 製 造 業 | 株式会社赤阪鐵工所               |
|       | いすゞ自動車株式会社              |
|       | 出光エンジニアリング株式会社          |
|       | 岩崎通信機株式会社               |
|       | 今治造船株式会社                |
|       | NOK株式会社                 |
|       | 株式会社大林組                 |
|       | 株式会社オカムラ                |
|       | 尾道造船株式会社                |
|       | カルソニックカンセイ株式会社          |
|       | 株式会社キッツ                 |
|       | キヤノン株式会社                |
|       | 三恵技研工業株式会社              |
|       | ジャパニアス株式会社              |
|       | 株式会社ジャパンマリンユナイテッド       |
|       | 株式会社新来島どつく              |
|       | 新明和工業株式会社               |

| 業 種           | 企 業 名            |
|---------------|------------------|
| 製 造 業         | 株式会社スギノマシン       |
|               | スズキ株式会社          |
|               | 住友重機械工業株式会社      |
|               | ダイキン工業株式会社       |
|               | 株式会社ダイフク         |
|               | 東京計器株式会社         |
|               | 東芝エレベータ株式会社      |
|               | 東洋エレクトロニクス       |
|               | トヨタ自動車株式会社       |
|               | 日立建機株式会社         |
|               | 日立産機システム         |
| 日立造船株式会社      |                  |
| 日本信号株式会社      |                  |
| 日本発条株式会社      |                  |
| 富士通株式会社       |                  |
| 三菱電機株式会社      |                  |
| 電気・ガス・熱供給・水道業 | 東京電力ホールディングス株式会社 |
| 情報通信業         | NECネットスアイ株式会社    |
|               | 鉄道情報システム株式会社     |
|               | 日本放送協会           |
|               | 農中情報システム株式会社     |
|               | ハミングヘッズ株式会社      |
|               | 株式会社ファスト         |
|               | 株式会社三井情報         |
| ヤフー株式会社       |                  |
| 運輸業、郵便業       | 旭タンカー株式会社        |
|               | 飯野海運株式会社         |
|               | 出光タンカー株式会社       |

| 業 種              | 企 業 名                |
|------------------|----------------------|
| 運輸業、郵便業          | 株式会社宇徳               |
|                  | SGホールディングス株式会社       |
|                  | NSユナイテッド海運株式会社       |
|                  | NSユナイテッド内航マリン株式会社    |
|                  | 大塚倉庫株式会社             |
|                  | 海洋技術開発株式会社           |
|                  | 川崎汽船株式会社             |
|                  | 川崎近海汽船株式会社           |
|                  | 株式会社近鉄エクスプレス         |
|                  | 栗林マリタイム株式会社          |
|                  | 京成電鉄株式会社             |
|                  | ケイラインローローバルクシップマネーメン |
|                  | ト株式会社                |
|                  | 山九株式会社               |
|                  | JXオーシャン株式会社          |
|                  | JFE物流株式会社            |
|                  | 株式会社商船三井             |
|                  | 昭和日タン株式会社            |
|                  | 株式会社住友倉庫             |
|                  | センコー株式会社             |
|                  | 第一中央汽船株式会社           |
|                  | 太平洋業貿易株式会社           |
|                  | 津軽海峡フェリー株式会社         |
|                  | 東洋埠頭株式会社             |
| 日通NECロジスティクス株式会社 |                      |
| 日本海洋事業株式会社       |                      |
| 日本サルヴェージ株式会社     |                      |
| 日本通運株式会社         |                      |

| 業 種                 | 企 業 名                    |
|---------------------|--------------------------|
| 運輸業、郵便業             | 日本郵船株式会社                 |
|                     | 日本コンテナターミナル              |
|                     | 株式会社ホンダロジスティクス           |
|                     | 三井倉庫ホールディングス株式会社         |
|                     | 三菱倉庫株式会社                 |
|                     | 三菱電機ロジスティクス株式会社          |
|                     | 明治海運株式会社                 |
|                     | リコーロジスティクス株式会社           |
|                     | リベラ株式会社                  |
|                     | 株式会社ロジネットジャパン            |
| 卸売業、小売業             | WalmartJapan合同会社西友       |
|                     | 孝専社                      |
|                     | 商船三井テクノトレード株式会社          |
|                     | 株式会社ショクリュー               |
|                     | 丸紅エアロスペース株式会社            |
| 金融業、保険業             | 株式会社ラクト・ジャパン             |
|                     | 郵船商事株式会社                 |
| 不動産業、物品販売業          | 株式会社トマト銀行                |
|                     | 首都高速道路株式会社               |
| 学術研究、<br>専門・技術サービス業 | 成田国際空港株式会社               |
|                     | 株式会社スタッフサービスエンジニアリング事業本部 |
|                     | テクノプロ・デザイン社              |
| 教育、学習支援業            | 一般社団法人日本海事検定協会           |
|                     | 独立行政法人海技教育機構             |
| 複合サービス事業            | 日本船主責任相互保険組合             |
| サービス業               | セコム株式会社                  |
|                     | 株式会社乃村工藝塾                |
| 公 務                 | 防衛省自衛隊                   |

## 大学院海洋科学技術研究科

| 業 種          | 企 業 名           |
|--------------|-----------------|
| 鉱業、採石業、砂利採取業 | JX金属株式会社        |
| 建 設 業        | 味の素エンジニアリング株式会社 |
|              | 株式会社エコー         |
|              | 三機工業株式会社        |
|              | 箱根植木株式会社        |
|              | メタウォーター株式会社     |
| 製 造 業        | アサヒビール株式会社      |
|              | 味の素AGF株式会社      |
|              | アズビル株式会社        |
|              | アビ株式会社          |
|              | アミュート株式会社       |
|              | アムコン株式会社        |
|              | 株式会社イシダ         |
|              | 伊藤忠飼料株式会社       |
|              | 伊藤ハム株式会社        |
|              | エーザイ株式会社        |
|              | 江崎グリコ株式会社       |
|              | 株式会社荏原製作所       |
|              | オカモト株式会社        |
| 株式会社科学飼料研究所  |                 |

| 業 種        | 企 業 名             |
|------------|-------------------|
| 製 造 業      | 川崎重工業株式会社         |
|            | 株式会社キミカ           |
|            | キュービー株式会社         |
|            | キュービー醸造株式会社       |
|            | 共同カイテック株式会社       |
|            | 共立製薬株式会社          |
|            | 栗田工業株式会社          |
|            | ケンコーマヨネーズ株式会社     |
|            | 独立行政法人国立印刷局       |
|            | ゴトー養殖研究所          |
|            | サッポロビール株式会社       |
|            | SUNGROW JAPAN株式会社 |
|            | 株式会社シーテック         |
|            | 株式会社資生堂           |
|            | シャープ株式会社          |
|            | 昭和産業株式会社          |
|            | 株式会社新来島豊橋造船       |
|            | 株式会社タカラトミー        |
|            | 株式会社タケショー         |
|            | 千葉製粉株式会社          |
| 月島食品工業株式会社 |                   |
| 常石造船株式会社   |                   |

| 業種            | 企業名                            |
|---------------|--------------------------------|
| 製造業           | 株式会社ディーエイチシー                   |
|               | 株式会社ディスコ                       |
|               | 東京製綱株式会社                       |
|               | 東芝デバイス&ストレージ株式会社               |
|               | 東洋紡株式会社                        |
|               | 東洋冷蔵株式会社                       |
|               | 新潟原動機株式会社                      |
|               | 株式会社ニチレイ                       |
|               | 日清オイリオグループ株式会社                 |
|               | 日清食品ホールディングス株式会社               |
|               | 日新製糖株式会社                       |
|               | 日清フーズ株式会社                      |
|               | 日東富士製粉株式会社                     |
|               | 株式会社日本色材工業研究所                  |
|               | 日本水産株式会社                       |
|               | 日本製紙株式会社                       |
|               | パーク24株式会社                      |
|               | ハウス食品株式会社                      |
|               | 久光製薬株式会社                       |
|               | 日立化成株式会社                       |
|               | 日立建機株式会社                       |
|               | 株式会社日立ハイテクサイエンス                |
|               | 株式会社日立ハイテクマニファクチャ&サービス         |
|               | フィードワン株式会社                     |
|               | 株式会社フジクラ                       |
|               | プリマハム株式会社                      |
|               | 古野電気株式会社                       |
|               | 株式会社ポケモン                       |
|               | ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社           |
|               | ホッカンホールディングス株式会社               |
|               | マクダーミッドパフォーマンスソリューションズジャパン株式会社 |
|               | 有限会社マザー食品                      |
|               | マリルフーズ株式会社                     |
|               | マルコム株式会社                       |
|               | 丸大食品株式会社                       |
|               | マルハニチロ株式会社                     |
|               | 株式会社三井E&Sマシナリー                 |
|               | 株式会社Mizkan J plus Holdings     |
|               | 三菱商事ライフサイエンス                   |
|               | 株式会社ミノファーゲン製薬                  |
|               | ミヨシ油脂株式会社                      |
|               | 株式会社武蔵野                        |
|               | 株式会社明治                         |
| 森永乳業株式会社      |                                |
| 株式会社ヤクルト本社    |                                |
| ヤマザキビスケット株式会社 |                                |
| 横浜冷蔵株式会社      |                                |
| 株式会社ロッテ       |                                |
| 電気・ガス・熱供給・水道業 | Air Liquide China              |
|               | 大阪ガス株式会社 エネルギー技術研究所            |
|               | 東京電力ホールディングス株式会社               |
| 情報通信業         | アース総合開発株式会社                    |
|               | アイディア株式会社                      |
|               | インテリジェントウェイブ                   |

| 業種                  | 企業名                               |
|---------------------|-----------------------------------|
| 情報通信業               | 株式会社インフォセンス                       |
|                     | エス・アンド・アイ株式会社                     |
|                     | 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ                  |
|                     | 株式会社NTTDocomo                     |
|                     | 株式会社NYK Business Systems          |
|                     | キリンビジネスシステム株式会社                   |
|                     | 株式会社ケネス                           |
|                     | 株式会社サテライト                         |
|                     | 株式会社CNインターボイス                     |
|                     | JFEシステムズ株式会社                      |
|                     | 商船三井システムズ株式会社                     |
|                     | Sky株式会社                           |
|                     | 株式会社大和ソフトウェアリサーチ                  |
|                     | 東洋ビジネスエンジニアリング株式会社                |
|                     | 株式会社日本アルトマーク                      |
|                     | 日本ソフトウェアマネージメント                   |
|                     | 日本タタ・コンサルタンシー・サービシズ株式会社           |
|                     | 農中情報システム株式会社                      |
|                     | バクテラ・テクノロジー・ジャパン株式会社              |
|                     | 株式会社日立産業制御ソリューションズ                |
| 株式会社日立ソリューションズクリエイト |                                   |
| 株式会社ブレインパッド         |                                   |
| 三菱UFJトラストシステム株式会社   |                                   |
| ユニシステム株式会社          |                                   |
| 楽天株式会社              |                                   |
| 株式会社ランドコンピュータ       |                                   |
| 運輸業、郵便業             | 大木国際物流                            |
|                     | Supply Chain Solution Managemento |
|                     | 中国総業株式会社                          |
|                     | 日本航空上海支店                          |
|                     | アサヒロジ株式会社                         |
|                     | 株式会社オカムラ物流                        |
|                     | 株式会社 日立物流                         |
|                     | 株式会社フジトランスコーポレーション                |
|                     | 東洋埠頭株式会社                          |
|                     | 株式会社日新                            |
| 日本海洋事業株式会社          |                                   |
| 株式会社阪急阪神エクスプレス      |                                   |
| 株式会社フジトランスコーポレーション  |                                   |
| 卸売業、小売業             | 株式会社マルイチ産商                        |
|                     | 阪和興業株式会社                          |
|                     | 株式会社合食                            |
| ニチモウ株式会社            |                                   |
| 金融業、保険業             | 農林中央金庫                            |
|                     | 日本漁船保険組合                          |
| 学術研究、<br>専門・技術サービス業 | 一般財団法人日本食品分析センター                  |
|                     | いであ株式会社                           |
|                     | 公益財団法人海外漁業協力財団                    |
|                     | 株式会社メディサイエンスプランニング                |
|                     | 株式会社環境総合テクノス                      |
|                     | 国際航業株式会社                          |
|                     | 一般財団法人材料科学技術振興財団                  |
|                     | 株式会社サンプラネット                       |
| 社会システム株式会社          |                                   |

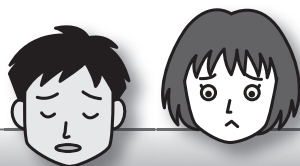
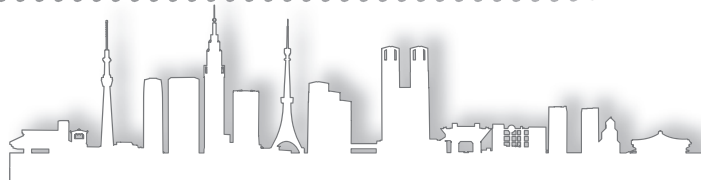
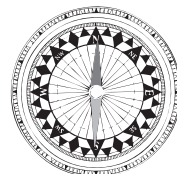


| 業 種                 | 企 業 名  |
|---------------------|--|
| 学術研究、<br>専門・技術サービス業 | 国立研究開発法人水産研究・教育機構  |
|                     | 株式会社ダイコンサルタント  |
|                     | タカラバイオ株式会社   |
|                     | 一般社団法人日本海事検定協会   |
|                     | 株式会社日本海洋生物研究所  |
|                     | 一般社団法人日本貨物検数協会理化学分析センター                                      |
|                     | 一般財団法人日本食品分析センター   |
|                     | 一般財団法人日本生物科学研究所  |
|                     | パシフィックコンサルタンツ株式会社  |
|                     | PCIソリューションズ株式会社  |
|                     | 株式会社メディサイエンスプランニング   |
|                     | 公益財団法人 山形県水産振興協会   |
|                     | 輸出入港湾関連情報処理センター株式会社  |
|                     | South China Sea fisheries Research Institute Chinese Academy |
| 中井技術士研究所            |  |
| 日本学術振興会             |  |
| 生活関連サービス業・娯楽業       | 有限会社日本海洋資源開発シークロップダイビングスクール                                  |
| 教育・学習支援業            | 独立行政法人海技教育機構   |
|                     | カントー大学   |
|                     | 千葉大学   |
|                     | 中央大学   |
|                     | 東京海洋大学   |

| 業 種      | 企 業 名              |
|----------|--------------------|
| 教育・学習支援業 | 東京大学               |
|          | 公益財団法人東京動物園協会      |
|          | 鳥羽商船高専専門学校         |
| 医療・福祉    | 日本赤十字社神奈川県支部       |
| 複合サービス事業 | 全国共済水産業協同組合連合会     |
|          | 全国漁業協同組合連合会        |
|          | 全国農業協同組合中央会        |
| サービス業    | 株式会社アウトソーシングテクノロジー |
|          | 株式会社メンバーズ          |
| 公 務      | 海上保安庁海洋情報部         |
|          | 水産庁                |
|          | 防衛装備庁              |
|          | 青森県                |
|          | 茨城県                |
|          | 岩手県                |
|          | 神奈川県               |
|          | 静岡県                |
|          | 千葉県                |
|          | 東京都                |
|          | 北海道                |
|          | 東京都中央区             |
|          | 東京都目黒区             |



# 学生相談の体制



## 学生相談室について

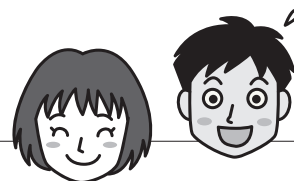
### 学生相談（カウンセリング）

学生生活、進路、対人関係で悩みがある場合は、専門カウンセラーが相談に応じます。

話をしてみることで、あるいは自分の思いを表現し

てみることで、思いのほか気持ちが楽になったり、次への展開へのきっかけが見つかったりもするものです。相談内容についての秘密は厳守されています。

### 品川キャンパス



|       |  |
|-------|--|
| 場 所   | 大学会館1階学生相談室  |
| 日 時   | 水曜日 12:30～16:30 木曜日 12:00～16:00<br>※詳細については、保健管理センターホームページをご覧ください。<br>大学ホームページ「在学生の方へ」→「保健管理センター」→「学生相談」 |
| 相 談 員 | 染谷先生（女性：臨床心理カウンセラー・水曜日担当）<br>高井先生（女性：臨床心理カウンセラー・木曜日担当）   |
| 予約方法  | 直接相談室においでくださるか、メールでご予約ください。<br>メール s-counseling@o.kaiyodai.ac.jp   |

### 越中島キャンパス

|       |  |
|-------|--|
| 場 所   | 越中島会館1階 学生相談室  |
| 日 時   | 水・金曜日 12:00～16:00<br>※詳細については、保健管理センターホームページをご覧ください。<br>大学ホームページ「在学生の方へ」→「保健管理センター」→「学生相談」                         |
| 相 談 員 | 善積先生（女性：臨床心理カウンセラー・水曜日担当）<br>河崎先生（女性：臨床心理カウンセラー・金曜日担当）   |
| 予約方法  | 直接相談室においでくださるか、保健管理センターでご予約ください。<br>1. 窓口にて<br>2. 電 話 03-5245-7357（保健管理センター事務室）<br>3. メール e-hoken@o.kaiyodai.ac.jp |

# 令和元年度 学生支援教員

## 1年生（平成31年度入学者）

| 学部       | 学科           | 教員氏名  |       |       |  |
|----------|--------------|-------|-------|-------|--|
| 海洋生命科学部  | 海洋生物資源学科     | 團 重樹  | 矢澤 良輔 |       |  |
|          | 食品生産科学科      | 久田 孝  | 柴田真理朗 |       |  |
|          | 海洋政策文化学科     | 日臺 晴子 | 大石 太郎 |       |  |
| 海洋工学部    | 海事システム工学科    | 高木 直之 | 岡崎 忠胤 | 西崎ちひろ |  |
|          | 海洋電子機械工学科    | 井上 順広 | 國吉 直  | 後藤 慎平 |  |
|          | 流通情報工学科      | 渡邊 豊  | 生天目知美 |       |  |
| 海洋資源環境学部 | 海洋環境科学科      | 山中 寿朗 | 神尾 道也 | 牧田 寛子 |  |
|          | 海洋資源工エネルギー学科 | 下島 公紀 | 古山精史朗 |       |  |

## 2年生（平成30年度入学者）

| 学部       | 学科           | 教員氏名  |          |       |  |
|----------|--------------|-------|----------|-------|--|
| 海洋生命科学部  | 海洋生物資源学科     | 二見 邦彦 | 山本 洋嗣    |       |  |
|          | 食品生産科学科      | 石崎松一郎 | 小川美香子    |       |  |
|          | 海洋政策文化学科     | 佐々木 剛 | ヤップ ミンリー |       |  |
| 海洋工学部    | 海事システム工学科    | 陶山 貢市 | 南 清和     | 内野 明子 |  |
|          | 海洋電子機械工学科    | 吉岡 諭  | 波津久達也    | 関口 美保 |  |
|          | 流通情報工学科      | 兵藤 哲朗 | 茂木 康平    |       |  |
| 海洋資源環境学部 | 海洋環境科学科      | 島田 浩二 | 宮崎 奈穂    | 橋濱 史典 |  |
|          | 海洋資源工エネルギー学科 | 池谷 毅  | 榎 牧子     |       |  |

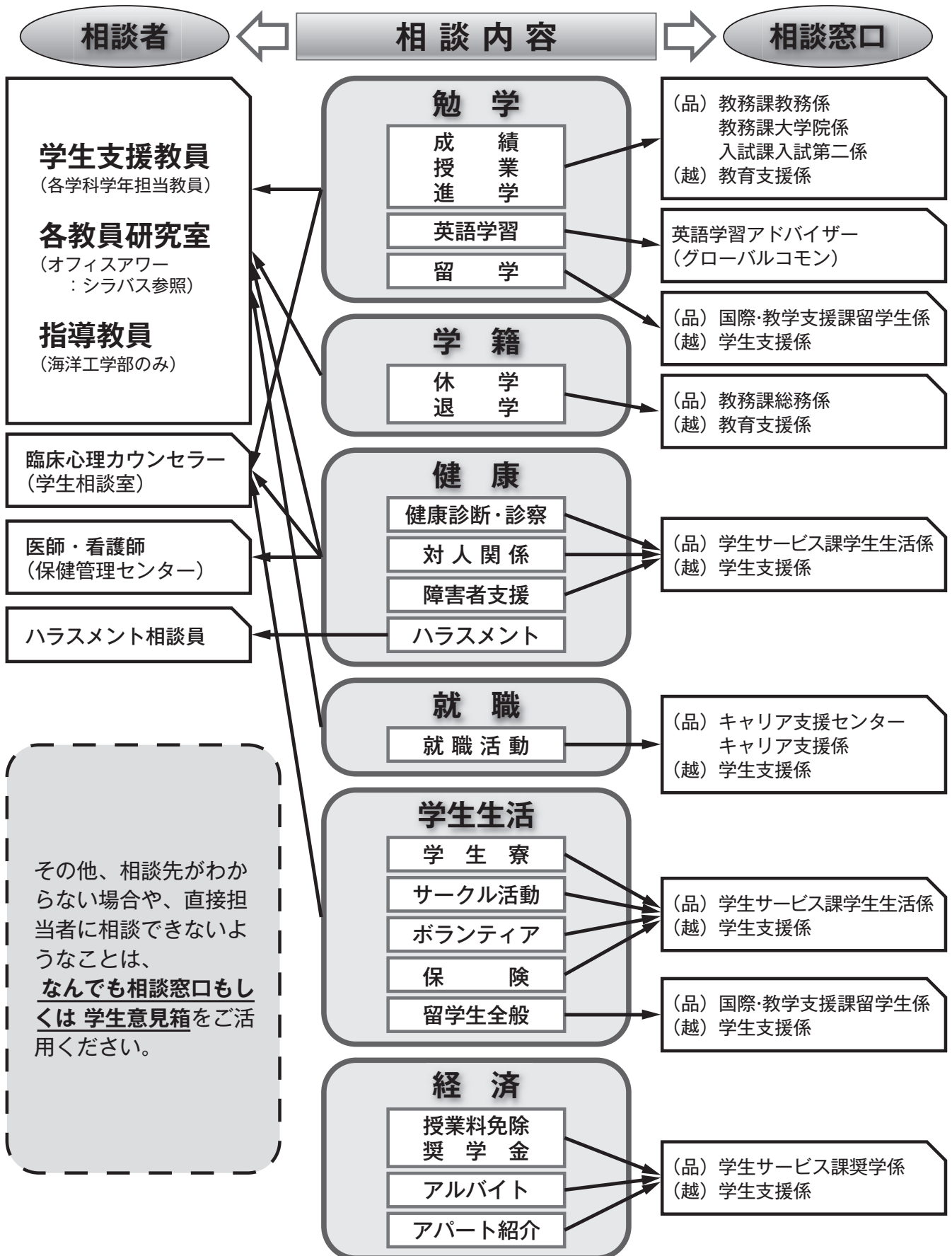
## 3年生（平成29年度入学者）

| 学部       | 学科           | 教員氏名  |       |       |  |
|----------|--------------|-------|-------|-------|--|
| 海洋生命科学部  | 海洋生物資源学科     | 片桐 孝之 | 岩田 繁英 |       |  |
|          | 食品生産科学科      | 後藤 直宏 | 木村 凡  |       |  |
|          | 海洋政策文化学科     | 高橋 周  | 萩原 優騎 |       |  |
| 海洋工学部    | 海事システム工学科    | 岩坂 直人 | 久保 信明 | 田丸 人意 |  |
|          | 海洋電子機械工学科    | 岩本 勝美 | 堀木 幸代 | 大島 浩太 |  |
|          | 流通情報工学科      | 久保 幹雄 | 奥村 保規 |       |  |
| 海洋資源環境学部 | 海洋環境科学科      | 長井 健容 | 中村 玄  | 任 恵峰  |  |
|          | 海洋資源工エネルギー学科 | 甘糟 和男 | 中東 和夫 |       |  |

## 4年生（平成28年度入学者）

| 学部    | 学科        | 教員氏名  |       |       |       |
|-------|-----------|-------|-------|-------|-------|
| 海洋科学部 | 海洋環境学科    | 酒井 久治 | 片野 俊也 | 川合美千代 | 大縄 将史 |
|       | 海洋生物資源学科  | 小林 武志 | 加藤 豪司 |       |       |
|       | 食品生産科学科   | 萩原 知明 | 大迫 一史 |       |       |
|       | 海洋政策文化学科  | 馬場 治  | 藤本 浩一 |       |       |
| 海洋工学部 | 海事システム工学科 | 逸見 真  | 石橋 篤  | 斎藤 浩一 |       |
|       | 海洋電子機械工学科 | 刑部 真弘 | 田中健太郎 | 田原淳一郎 |       |
|       | 流通情報工学科   | 寺田 一薫 | 橋本 英樹 |       |       |

# 学生相談体制について



# お知らせ

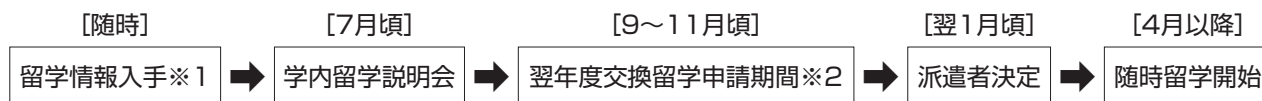
## 交換留学をしてみませんか？

新入生の皆さん、在学生の皆さん、新年度はいかがお過ごしでしょうか。

さて、東京海洋大学では2019年4月現在、世界の17カ国・地域の52大学と交換留学に関する協定（学生交流協定）を締結しています。交換留学とは、協定校へ3か月～最長1年間留学できる制度で、協定に基づき「受け

入れ大学は入学料、授業料を徴収しない」「留学先で取得した単位は、審査のうえ本学の単位に認定できる」「協定校から生活面、教育面での指導や、宿舍申請のサポートを受けられる」ほか、「専門的な講義を履修できる」など、個人的に語学学校などへ留学するのに比べて様々なメリットがあります。皆さんもぜひ留学してみませんか？

### ◆毎年の申請の流れ



※1 本学担当窓口で配布する「留学の手引き」や各協定校のHPをご覧ください。

※2 留学開始時期によっては、申請期間後も随時受け付けています。

### ◆留学できる大学（2019年4月1日現在）

(中国)哈爾濱商業大学、大連海洋大学、上海海洋大学、広東海洋大学、浙江海洋大学、大連海事大学、上海海事大学、中国海洋大学、集美大学、華東理工大学、華東師範大学、香港大学生物科学学院 (台湾)台湾海洋大学、高雄科技大学、台湾大学理学院 (韓国)釜慶大学校、全南大学校、韓国海洋大学校、木浦海洋大学校、釜山大学校、江原大学校 (インドネシア)ボゴール農科大学、サムラトゥランギ大学、ハサヌディン大学、ディポネゴロ大学 (フィリピン)サンカルロス大学 (タイ)カセサート大学、チュラロンコン大学、プリンスオブソンクラ大学、マエファラン大学、マヒドン大学、プラパ大学、ワライラック大学 (ベトナム)ニャチャン大学、カントー大学 (マレーシア)マレーシア大学サバ (カナダ)ヴィクトリア大学 (オーストラリア)タスマニア大学、フリンダース大学理工学部 (トルコ)エーゲ大学水産学部、イスタンブール大学、チャナッカレ・オンセキズ・マルト学、トルコ・地中海大学、ムーラ・シツウキ・コシマン大学水産学部 (アイスランド)アイスランド大学、アクレイリ大学 (ノルウェー)ノード大学、ノルウェー北極大学 (ペルー)国立アグリリア・ラ・モリーナ大学 (ブラジル)サンパウロ大学 (アルゼンチン)サンマルティン大学 (ナミビア)ナミビア大学

### ◆交換留学の担当窓口

(品川キャンパス) 学務部国際・教学支援課留学生係

(越中島キャンパス) 越中島地区事務室学生支援係

### 《先輩の声》 海洋科学部食品生産科学科4年 藏方真依さん

【留学先】ベトナム・カントー大学（2018年10月～2019年3月）

留学中、能力に関わらず機会があれば何でも挑戦してみました。家族、友人関係、大学、学外活動といった、今までの生き方をすべて比較し、自分にとって本質的に必要なものが何か考えられることが留学の魅力でした。様々な未知の出来事に遭遇しながら自分と向き合う時間は、間違いなく人生で一番長かったです。苦しいときは、同世代の友人達にいつも癒されていました。Why you always say “Thanks” ?と聞かれたことがあります。心遣いや感謝の気持ちは、言葉よりも行動で示す美しい文化があることを学びました。留学期間中、日本に大きな信頼と憧れを持ち、誰かに強制されずとも自ら知識を深めている学生にたくさん会いました。彼らの姿勢を見て、日本という国をもっと知りたい、時代に先駆け、彼らが見習いたくなるような働き方を貫きたいと思いました。発展途上国に長期で留学することは、一般的な先進国への留学とは大きく異なります。目指す未来は、誰一人同じではないからこそ、留学の行き先にも是非こだわってみて下さい。



筆者、前列左から4番目

## 図書館からのお知らせ

### 東京海洋大学「古本募金プロジェクト」のご案内

— 眠っている本で母校を応援しませんか? —

このプロジェクトは、利用し終えた書籍、CD・DVDやゲームソフトなどをお送りいただくことで、その買い取り額を寄附金として本学に受け入れ、学生の教育・研究活動に役立てる取り組みです。

在校生・卒業生、その親族の方のほか、どなたでもお申し込みいただけます。読まなくなった本を整理したい方、ぜひ、東京海洋大学「古本募金プロジェクト」をご利用ください。

#### ■申し込み方法：箱詰めして電話するだけ。

不要になった書籍等を段ボール箱に入れ、提携会社バリューブックス（電話：0120-826-292）に連絡してください。宅配業者が受け取りに参ります（5冊以上なら送料はかかりません。1回の申込みで3箱まで）。

【注意】以下の本は取り扱えませんので、ご了承ください。

※ISBNのない本、百科事典、コンビニコミック、個人出版の本、マンガ・一般雑誌など

詳細は、東京海洋大学古本募金サイトをご覧ください。  
<http://www.furuhon-bokin.jp/kaiyodai/>

図書館には、古本募金プロジェクト用の回収ボックスもありますので、冊（点）数が少ない場合は回収ボックスをご利用ください。

直接図書館に書籍等を寄附される場合は、各キャンパスの図書館にご連絡ください。

本学の教育・研究環境充実のため、皆様のご協力をお願い申し上げます。

## 国立科学博物館および国立美術館の利用について

本学は、「国立科学博物館 大学パートナーシップ」および「国立美術館キャンパスメンバーズ」に加入しております。

#### ◆国立科学博物館 大学パートナーシップ利用可能施設

| 施設名           | 住 所             |
|---------------|-----------------|
| 国立科学博物館(上野地区) | 東京都台東区上野公園7-20  |
| 附属自然教育園       | 東京都港区白金台5-21-5  |
| 筑波実験植物園       | 茨城県つくば市天久保4-1-1 |

本学の学生証を提示することで、下記施設の常設展が無料で利用できるほか、特別展・企画展を割引料金で鑑賞できるなどの特典があるので、ぜひご利用ください。

#### ◆国立美術館 キャンパスメンバーズ利用可能施設

| 施設名       | 住 所             |
|-----------|-----------------|
| 東京国立近代美術館 | 東京都千代田区北の丸公園3-1 |
| 国立西洋美術館   | 東京都台東区上野公園7-7   |
| 国立新美術館    | 東京都港区六本木7-22-2  |
| 国立映画アーカイブ | 東京都中央区京橋3-7-6   |

## 国立劇場の利用について

本学は「国立劇場キャンパスメンバーズ」に加入しています。

国立劇場・国立演芸場・国立能楽堂主催の歌舞伎、文楽、演芸、能楽などの公演を、一般料金の半額で鑑賞することができます。電話予約と窓口購入の二通りの方法があります。一般発売日以降にご購入いただけます。

また、イヤホンガイドや公演プログラムも割引利用・購入ができます。

本制度についての詳細、対象公演及びキャンパスメンバーズ特典については、国立劇場ホームページを参照願います。

[https://www.ntj.jac.go.jp/kokuritsu/campus\\_members.html](https://www.ntj.jac.go.jp/kokuritsu/campus_members.html)

#### ◆歌舞伎公演の料金 ※料金は平成31年1月現在のものです。

| 等級   | 一般料金    | キャンパスメンバーズ料金 |
|------|---------|--------------|
| 特別席  | 12,500円 | 6,300円       |
| 1等A席 | 9,800円  | 4,900円       |
| 1等B席 | 6,400円  | 3,200円       |
| 2等A席 | 4,900円  | 2,500円       |
| 2等B席 | 2,700円  | 1,400円       |

#### ◆イヤホンガイドや公演プログラムの割引価格

イヤホンガイド：通常料金から150円割引。

公演プログラム：通常料金から100円割引。

※歌舞伎・文楽公演のみ対象

# 緊急時連絡システムについて

## (さくら連絡網)

### —緊急時連絡システムとは—

本学のすべての学生・教職員と緊急時に連絡をとるためのメール・LINEの配信システムです。

1. 台風・地震等の自然災害やインフルエンザ流行等による緊急の休講等を連絡します。
2. 災害時の安否確認や健康状態の収集手段としても使用します。
3. その他、掲示板で告知するお知らせの中で緊急性があり重要と判断するお知らせ等の連絡をします。

### —登録方法—

緊急時における大学からの連絡を確実かつ速やかにご確認いただくため、携帯電話・スマートフォン等の携帯端末及び自宅PC等の複数のメールアドレス（4件まで）またはLINEの登録を行ってください。

登録手順は以下のとおりです

1. さくら連絡網登録用QRコードまたはURLにアクセスします。

QRコードはこちら →



URLはこちら → <http://390390.jp>

URLを直接入力した場合は、  
認証コードの入力を求められます。  
認証コード：204 441 4

2. 大学からの連絡を受け取りたい方法を【LINE】または【メール】から選びます。

（※両方登録することもできます。）

3. 【LINE】を選んだ場合

- ①LINEの友だち追加ボタンから登録（追加）します。（トークから登録開始）
- ②認証コード：204 441 4 を入力します。
- ③IDとパスコードを入力します。

【メール】を選んだ場合

- ①登録用メール送信画面に切り替わるので、そのまま送信します。（※メール本文は変更しないでください。）
- ②さくら連絡網からメールで登録用のURLが届きます。
- ③URLにアクセスして、登録画面からIDとパスコードを入力します。

4. メニュー画面（以下、マイページといいます）が表示されたら登録完了です。

### —メール受信時の注意—

※緊急時連絡システムではメール・LINE受信者が開封したかどうかの確認が取れるシステムになっています。

また、アンケート形式で安否確認を行う場合もあります。受信した場合は必ず開封し、内容を確認した後、指示に従い回答を行ってください。

※登録用メールが届かない場合は、ドメイン指定受信にschool-i.netを追加登録して下さい。

※マイページ (<https://390390.jp/parent/menu>) をブックマーク（スマートフォンの場合はホーム画面に追加）しておく、後日、メールアドレスの変更等を行う際に便利です。また、簡単ログイン設定をしておくと同様次回からワンクリックでマイページにアクセスできるようになります。

※配信先の変更を希望する場合やアドレス自体を変更した

場合は、マイページのメニューの「連絡先を追加」から新しい連絡先を追加し、「登録情報確認」から古い連絡先を削除して下さい。

※ログインID、パスコードは各自で管理してください。

※パスコードを紛失した場合は、以下の問合せ先へご連絡ください。

※緊急時連絡システムは、大学からの送信専用アドレスです。上記のアンケート形式での回答以外は、大学側では内容の確認ができませんのでご注意ください。

### —個人情報取り扱いに関して—

緊急時連絡システムにご登録いただきましたメールアドレス等、個人情報に関しては本学個人情報保護規則に法り厳正な取り扱いをいたします。また、上記の目的に限り使用し、他の目的で使用することはありません。

# Emergency Communication System: Sakura Renrakumou

## What is Sakura Renrakumou?

Sakura Renrakumou is an emergency communication system to contact all students and faculty members by email/LINE for the following purposes:

1. To inform them of a sudden cancellation of a class due to a natural disaster such as a typhoon or an earthquake, a flu epidemic or other reasons.
2. To gather information about their safety and health after the occurrence of a disaster
3. To give them particularly urgent and important information from among the information posted on the bulletin boards at the campuses.

## How to register:

Please register your mobile phone/smartphone/PC addresses (up to four) or LINE with the system so that you can receive information from the University surely and promptly in case of emergency.

### Registration process:

1. Scan the QR code or access the website for Sakura Renrakumou registration

QR code:



Website:

<http://390390.jp>

You need to input the authentication code (204 441 4) to register with the system directly through this website:

2. Choose "LINE" or "Email" as the method to receive information from the University.

(\*You can choose both.)

3. When you choose "LINE",

- 1) Start the registration process by pressing LINE's "Add Friends" button (on the "Talk" screen)
- 2) Input the authentication code (204 441 4).
- 3) Then input your ID No. and passcode.

When you choose "Email,"

- 1) The registration email sending screen will be displayed. Please send the email as it is without changing the text.
- 2) You will receive an email showing the website for registration from the system.
- 3) Access the website and input your ID No. and passcode on the registration screen.

4. Registration is completed when the menu screen is displayed.

### With regard to the messages sent by the system, please note the following:

- The system checks whether you have opened the email/LINE messages sent by the system. The system sometimes sends you a questionnaire as a means to confirm your safety. When you receive a message from the system, please open it without fail, check the content and send a reply to it as required.
- If you fail to receive an email showing the website for registration from the system, please check your device's spam filter settings and add the domain name "school-i.net" to your list of authorized contacts as necessary.
- Add My Page (<https://390390.jp/parent/menu>) to your bookmarks (or to the home screen of your smartphone) so that you can easily change your email address and other settings subsequently. Also, you can access My Page by one click by applying easy login setting.
- To change the email address settings, including changing the address itself, add a new email address on the My Page screen and delete the old address from the registered information.
- You are responsible for the management of your login ID No. and passcode.
- If you have forgotten your passcode, please contact the department in charge as shown below.
- The system is designed only for sending messages and the University cannot check the information sent to the system except for replies to the questionnaires.

### Privacy policy

Email addresses and other information registered with the system are strictly protected according to the University's privacy policy. The University will use the system only for the purposes stated above.

**Contact for inquiries about the system:** General Affairs Department, General Affairs Division  
so-soumu@o.kaiyodai.ac.jp 03-5463-0354



## ネットワーク障害防止のための注意事項

**重要!**

キャンパス内で、ネットワーク停止が頻発しています。  
研究室内の配線の点検をお願いします。



### ループ状にケーブルを接続しない

ケーブルの両端をネットワーク機器に接続すると、出口のない通信パケットがネットワーク内で増大し、フロア全体や建屋全体が通信不能になるなどの重大な障害が引き起こされます。利用しないケーブルは機器から取り外してください。

### 古いハブ、壊れたLANケーブルを使用しない

古くなったプラスチック製のハブ(HUB、Switch)は、熱暴走等でフロア全体の通信障害の原因となることがあります。壊れた配線やコネクタの損傷も通信トラブルの原因になる場合があります。導入後の年数や破損状況を確認し、適宜、買い替えましょう。

→ **金属製ケースのハブがオススメ**です。放熱に優れ、安定して長く使えます。  
詳しい型番などは下記窓口にお問い合わせください。

### 研究室内のルータの設定・接続を正しく行う

研究室で個別に設置したブロードバンドルータ、無線LANルータのDHCP機能の誤設定により、フロアや建屋全体での通信障害につながる場合があります。ネットワークケーブルが正しく接続されているかを点検してください。

→ **「WAN」「LAN」を間違えると障害が発生します!**

古いOAタップの使用、定格電流を超えた使用や、  
タコ足配線は**火災の原因になります**ので、注意してください。



**注意**

## PCは最新の状態にアップデートしてください

OSの脆弱性を狙ったウイルスによる情報漏えい被害が世界的に報告されています。利用しているOSやウイルス対策ソフトを常に最新の状態を保つようにしてください。私有のノートPCでも、大学配布のウイルスバスターをインストールすることができますので、是非活用してください。

**Windows XP、Vista、8 及び Mac OS Xは、メーカーのサポートが終了**しています。これらのOSをお使いの場合は速やかに最新のOSに更新してください。

現在利用可能なOSは、Windows10、Windows8.1、Windows7、macOS(Mojave)です。

※ 2020年1月14日にWindows7のサポートが終了します。

## PC等を廃棄する際はデータの消去をしてください

廃棄するパソコン等からの情報流出を防ぐため、ハードディスク、SSD等の記録媒体の破壊装置、消去装置を利用してください。下記窓口にお持ちください。

### 情報システムに関する全学問合せ窓口

メール [ict-support@o.kaiyodai.ac.jp](mailto:ict-support@o.kaiyodai.ac.jp) 内線 0446

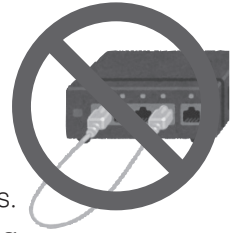
附属図書館(品川) 1階事務室内 (担当: 学術情報課情報企画係)

大学配布ソフトウェアの入手方法 <http://support.ipc.kaiyodai.ac.jp/>

**Important!**

## Precautions for Preventing Network Failure

Network outages occur frequently on campus.  
Check the wiring inside the research office.



### **Do not connect the cable in a loop (as in the picture.)**

Connecting both ends of a cable to network equipment can cause serious obstacles. For example, communication packets without an exit increase within the network, making the entire floor or building unreachable. Remove unused cables from the equipment.

### **Do not use old hubs or broken LAN cables**

An old plastic hub (HUB, Switch) may cause communication failure of the entire floor due to thermal runaway. Damaged wires and connector damage may also cause communication trouble. Check the years of use and state of damage and replace as necessary.

→ **A hub with a metal case is recommended.** It is stable, long-lasting, and provides excellent heat dissipation. For a detailed model number, contact the Inquiry Center given at the bottom of this page.

### **Set up and connect the router in the office correctly.**

Misconfiguration of the DHCP function on the broadband router and wireless LAN router individually installed in the offices may lead to communication failure on the floor or the entire building. Check that the network cable is properly connected.

→ **If "WAN" and "LAN" are confused, network failure will result!**

Use of old OA taps, use exceeding the rated current, and use of power strips **may cause fire**. Beware.



50

## **Caution Optimize your PC with the latest updates**

Information leakage due to viruses targeting OS vulnerabilities is reported worldwide. Make sure that the operating system and antivirus software you are using are kept up to date. Even on a private notebook PC, you can install the university-distributed antivirus software. Take advantage of it by all means. Manufacturer support has ended for Windows XP, Vista 8, and Mac OS X. Update to the latest OS promptly if using these OS. The currently available OS are Windows 10, Windows 8.1, Windows 7, macOS (Mojave).

※ Windows 7 End of Life is January 14th, 2020.

## **Delete data when discarding a PC, etc.**

To prevent information leakage from discarded personal computers, etc., use data destruction and erasure devices for recording media such as hard disks and SSDs. Please bring them to the following counter:

### **Information System Inquiry Center**

Email [ict-support@o.kaiyodai.ac.jp](mailto:ict-support@o.kaiyodai.ac.jp) Extension 0446

TUMSAT Library (Shinagawa) Office, first floor

To obtain University distribution software, contact: <http://support.ipc.kaiyodai.ac.jp/>

# 掲 示 版

## 薬物の乱用について

薬物の乱用は、本人の精神と身体に危害を及ぼします。また、友人や家族関係の崩壊にもつながるなど、本人だけでなく、社会全体に計り知れない影響をもたらします。このため、薬物の所持や使用は法律で禁止されており、違反者は厳罰に処せられます。

薬物に対して安易な気持ちや一時の興味で接することのないよう十分注意してください。

## 盗難に注意

下記の事項を守り、自己管理を徹底してください。

- ・貴重品は、できる限り大学には持参しないでください。
- ・やむを得ず所持する場合は、各自でロッカーに鍵をかけて管理してください。
- ・鍵は安易に解錠出来ないもの（ダイヤル式など）を選んでください。

## 悪質商法等に注意

消費者契約等に関するトラブルが増加しています。うまい話には要注意です。少しでも疑問を感じたら契約しないでください。また、身に覚えのない請求などは支払わないでください。

訪問販売や電話勧誘販売など、特定の取引の場合に、一定期間内ならば理由を問わず解約できるクーリング・オフ制度があります。もしも被害に遭ってしまったときは消費生活センターに相談してください。

## カルト団体等の偽装勧誘に注意

キャンパス内において、自らが宗教団体であることを名乗ることなく、サークル活動や自主ゼミと称し、特定の反社会的なカルト団体に引き込まうとする「偽装勧誘」の事例があります。

声を掛けられておかしいと感じた場合はキッパリと断り、安易に電話番号、メールアドレス等を交換しないでください。また、不審な団体と感じたとき、あるいは勧誘活動を受けた場合は、下記まで知らせてください。

- 品川キャンパス：学生サービス課学生生活係
- 越中島キャンパス：越中島地区事務室学生支援係

## 飲酒についての注意事項

### (1) 未成年者の飲酒は法律で禁止されています。

アルコールには麻酔作用があるので、未成年者が飲み方や適量もわからず無理に飲むと、急性アルコール中毒を起こしやすいといわれています。もし、誰かに勧められても、きちんと断ることが大切です。

### (2) 飲酒の強要は絶対にしないこと。

未成年者やお酒に弱い方にお酒を強要することは絶対にしないでください。

### (3) 飲酒運転は厳禁です。

「道路交通法」では飲酒運転のほか、飲酒者への車両の提供、運転者への酒類の提供、飲酒運転の車への同乗についても禁止されており、厳しい罰則が課せられます。

